

市民等との協働事業一覧  
(令和元年度事業)



令和元年度市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
1	企画部	秘書広報課	交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	1	
2	市民安全部	市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	3	
3				不動産鑑定士による無料相談会	5	
4				不動産無料相談会	7	
5				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	9	
6				相続税等無料相談会	11	
7				青梅市市民のくらし展	13	
8				防災課	防災係	青梅市防災講演会
9	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	17		
10			お〜ちゃんフェスタ2019	19		
11			市民活動団体支援講座	21		
12			「おそきだより」の発行	23		
13			男女平等情報紙発行事業	25		
14			青梅市民センター	ネットたまご〜あそびば文化祭	27	
15			長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	29	
16				長淵地区文化祭	31	
17			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	33	
18				文化展	35	
19				地域散歩	37	
20			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	39	
21				梅郷市民センター文化祭	41	
22			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	43	
23				三田地区総合文化祭	45	
24			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	47	
25				小曾木地区文化祭	49	
26			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	51	
27				成木地区文化祭	53	
28				東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	55	
29			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	57	
30				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	59	
31				第八支会ささえあいフェスティバル	61	
32				ヨガ教室	63	○
33			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	65	
34				新町市民センター文化祭	67	
35				おうめこどもエコクラブ共催事業	69	
36			河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	71	
37				河辺市民センター文化祭	73	
38			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	75	
39				今井市民センター文化展	77	
40				市民ウォーキング	79	
41	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2019	81	

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
42	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境ニュースの発行	83			
43				クールビズ運動	85			
44				みんなで打ち水！	87			
45				ウォームビズ運動	89			
46				エコドライブ運動	91			
47				みどりのカーテン事業	93			
48				ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	95			
49				多摩川まるごと遊び塾	97			
50				がんばれ！あゆっ子2019「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	99			
51				第11回炭焼き体験と水辺の交流会	101			
52				親子魚釣り教室2019(お父さん頑張って)	103			
53				じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー	105			
54				いかだであそぼう in 霞川 Part11	107			
55				お魚釣り	109			
56				飼い主のいない猫のための「里親会」	111			
57				動物愛護週間イベントinおうめ	113			
58				さくらねこ無料不妊手術事業	115			
59				清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	117	
60				公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	119	
61						緑地管理ボランティア	121	
62	青梅の森保全プロジェクト(青梅の森保全事業)	123						
63	健康福祉部	高齢介護課	高齢者支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	125			
64			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	127			
65				認知症サポーター養成研修事業	129			
66				介護サービス相談員派遣事業	131			
67				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	133			
68	障がい者福祉課	認定サービス係	令和元年度 中級手話講習会	135				
69	健康課	健康推進係	第50回おうめ健康まつり	137				
70	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズパーク」管理・運営事業	139			
71				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	141			
72				子どもふれあいフェスタ2019	143			
73				青梅市民センター子育て支援事業	145			
74				あつまれ！0.1.2.3 ちびっこ☆ランド	147			
75			青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	149			
76	経済スポーツ部	商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	151			
77				梅の公園ガイドボランティア事業	153			
78		農林水産課	林務水産係	森林ボランティア育成講座	155			
79		スポーツ推進課	スポーツ推進係	第54回青梅マラソン大会	157			
80	都市整備部	都市計画課	開発指導係	青梅駅周辺景観まちづくり	159			
81		住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	161			
82				青梅市定例住宅相談会	163			
83	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	165			

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
84	教育部	社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2019～	167	
85				ネットたまごセンターオープニングイベント	169	○
86				家庭教育講演会	171	
87			図書館担当	「この指とまれ！」朗読会	173	
88				中央図書館整架ボランティア	175	
89				おはなしボランティア	177	
90		文化課	郷土博物館管理係	鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし	179	
91		市民提案協働事業	環境政策課	大荷田川の水質調査およびホタル発生状況調査 （「里山の自然環境維持と活用」に向けての基礎調査	183	
92			防災課・市民活動推進課	自分を守る・家族を守る・地域を守る♡みんなで守る ～災害時避難安全カードづくり&へリサイン更新～	187	
93	農林水産課・指導室		身近な森林の活用を考える	193		
94	秘書広報課・農林水産課		青梅の魅力発信！人と人がつながる！まちとつながる旅	197		



協働事業評価シート

(90事業)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	担当課	秘書広報課 交流担当
------	----------------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和2年2月 場所: 第54回青梅マラソン大会会場
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和58年2月)
(2) 事業の目的	国際交流の促進のため、青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等の受入れを、青梅市日本中国友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等に対する、おもてなしを通じて、更なる国際交流を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	新型コロナウイルス感染症の影響により、選手団から出場辞退の申し入れがあり、事前の連絡調整のみとなった。
(5) 事業経費(決算額)	青梅市日中友好協会の対応のため、市としての経費は発生していない。

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市日本中国友好協会 参加人数: 0名(青梅マラソンへの出場辞退のため)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日中友好協会は市民レベルでの交流を行っており結びつきも強いいため、外国人招待選手について青梅市との協働事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 来青までの事前調整、宿泊先の確保等 行政側: 大会へのエントリー、大会前日、当日の誘導等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
(11) 協働による効果			
市民側			
青梅マラソン大会への出場意向に関する選手団および市との連絡調整を通じ、交流を更に深めることができた。			
行政側			
新型コロナウイルス感染症の影響から通常とは異なる調整内容となり、青梅市日本中国友好協会といっそうの連絡体制をとることが出来た。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市との連携を強化し、今後も継続可能な受入体制を構築したい。			
行政側			
青梅マラソン(スポーツ)交流を継続していくため、今後も受入体制等の役割分担を適切にしていく。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年10月8日(火) 午前10時から午後4時 場所： 市役所2階会議室
	1単年度事業 <u>2継続事業</u> ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 <u>2 事業共催</u> 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 東京都行政書士会多摩西部支部 参加人数： 3人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案 <u>2 団体等からの提案</u>
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西部支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 <u>2 実施段階</u> 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応  行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側  
市民側 行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。

行政側  
相続、遺言に関する相談を図れた。相談者数11人

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側  
市民側 無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。

行政側  
行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成31年4月27日(土) 午前11時から午後5時 場所：イオンモール日の出 催事スペース
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数：7人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができた。</p>			
<p>行政側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。相談者数17人</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。</p>			
<p>行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成31年4月27日(土) 午前11時から午後5時 場所：市役所2階会議室
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数：9人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 全日本不動産協会東京音本部多摩西支部からの要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができた。

#### 行政側

市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。相談者数40人

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。

#### 行政側

安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部 (法テラス)の無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	---	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年10月31日(木)・12月5日(木) 午後5時から午後8時10分 場所： 市役所2階会議室
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)、東京三弁護士会多摩支部 参加人数： 各回1人 計2人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日本司法支援センター(法テラス)からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側

市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。

行政側

市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。相談者数8人

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。

行政側

市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	相続税等無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-----------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和2年1月16日(木) 午後1時から午後4時00分 場所： 市役所3階 市民安全課相談室
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	相続税等様々な税に関する無料相談会を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相続税等の相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	税理士による相続税等無料相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 東京税理士会 青梅支部 参加人数： 2人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京税理士会 青梅支部からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 税に関する諸問題に関する相談に応えることできた。			
行政側 税相談を行うことにより、市民が抱えている税に関する諸問題の解決が図れた。相談者数12人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 税相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。			
行政側 市民への税相談の機会をふやすために開催したい。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年11月2日(土)・3日(日) 午前10時から午後4時 場所: 永山公園グラウンド(青梅産業観光まつりに併設)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成17年8月第1回実行委員会開催)
(2) 事業の目的	『「楽しもう日々のくらし! みんなの未来のために!」～みつけてかえろう 楽しむヒント～』をテーマに、消費生活に関する知識や情報を発信し、1人1人が自立した消費者になるための啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	産業観光まつりの来場者に対し、生活の中で知ってもらいたい情報(消費者関係、行政関係)を展示、催し物等により発信する。
(4) 実施内容(実績値等)	展示コーナー: パルシステム東京、コープみらい・みらいひろば青梅新町、実行委員会、ボランティア協力団体、人権・行政相談、交通安全・防犯・ちょこっと共済、食品ロス啓発、男女平等参画社会、自治会連合会、ごみの減量他、クイズ(2日間1,083人)、消費者相談、消費者クイズ、食品衛生啓発、フードドライブ、アンケート(ラスク・サブレ配布)
(5) 事業経費(決算額)	922,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 「生活協同組合パルシステム東京」10人、「生活協同組合コープみらい みらいひろば青梅新町」14人、「都立青梅総合高等学校」14人、「都立多摩高等学校」、「都立青峰学園」
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度まで消費生活展として実施していたが、婦人会団体がなくなったため、平成17年度からは「市民のくらし展」として、実行委員会を組織して開催している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ぐらし展実施企画・運営、啓発パネル等の作成、展示、説明 行政側: 実行委員会会議の設定、ぐらし展会場の総括、準備、整理

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

多くの来場者があり、テーマに沿った展示等を行い、消費者についての情報発信や消費者啓発ができた。高校生ボランティアは、ウォークバルーン活動やクイズコーナー運営などの啓発活動を通して、消費者としての情報を学ぶ機会となった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

東京牛乳(地産地消)を原料としているラスク等の配布は、来場アンケートの回答者に配布する形にし、アンケートを実施することで、くらし展についての感想等を聞くことができ有意義だった。実行委員会として協力する団体が減少し、また協力団体の構成員も減少してきているため、くらし展の実施は負担が大きくなってきている。新しい協力団体の募集等が必要。

#### 行政側

実行委員会の負担にならないように事務局も協力して実施できた。構成員の減少等による本事業への負担を軽減するためにも、協力団体を増やす必要があるが、希望する団体がいないのが現状である。実施内容等の見直しも今後必要になってくると考える。また、高校生ボランティアでは、多摩高校は他のボランティアとして活動してため、協力体制が難しくなっている。

#### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課防災係
------	----------	-----	--------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和2年1月19日(日)午前10時から正午 場所： 青梅市役所
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年1月)
(2) 事業の目的	1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、市民の防災知識の向上を図ること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	より多くの住民参加と防災意識等の啓蒙・啓発
(4) 実施内容(実績値等)	講演内容 ○自助・近所・共助でつくる災害に強いまち(講師 山村 武彦 防災システム研究所) ○青梅市自治会連合会長講話(高橋 正 会長)
(5) 事業経費(決算額)	・市報償費 103,000円 ・青梅市自治会連合会 70,000円 計173,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会 参加人数： 388人(市民含む)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	防災意識の向上と自治会活動の活性化および加入促進を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 自治会に対する周知活動  行政側： 市民、関係機関等への周知

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 自治会連合会と市が連携を図ることができ、自治会会員の防災意識の向上を図ることができた。</p>			
<p>行政側 市と自治会連合会が連携を図ることができ、市民の防災意識の向上を図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 自治会加入者、未加入者を問わず市民全体の防災知識の向上が必要であり、防災に関する自治会の課題解決を図るための講演内容の選定、自治会単位での防災ハンドブックなどを活用した講習会の実施など。</p>			
<p>行政側 より多くの市民の参加を図るための周知と自治会未加入者の防災知識の向上</p>			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年5月10日、7月22日、11月18日、令和2年3月 場所： 市役所会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	次年度より設定したい
(4) 実施内容(実績値等)	協働事業実施結果について意見をもらう。今後の協働のあり方等について意見をもらう。
(5) 事業経費(決算額)	謝礼金80,000円(@10,000円×8人) 辞退1人

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティア・市民活動センター 参加人数：9人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 提案や意見の発表  行政側： 会議の事務局

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働事業への取り組みへの行政側の熱意がこれからの行政のあり方や地域活性化の鍵を握っていると思う。日常業務を滞りなく進めることが行政としての最大の責務であるため、実際、各担当課は新たな視点や長期的視点での踏み込んだ動きは取りにくい。このあたりの意識の共有、課題認識などを話し合える場となってきている。</p>			
<p>行政側 多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会で協働事業への取り組みの報告や市の協働に対する意見交換を行った。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 協働での事業の進め方の更なる改善、市民団体を支援するシステムや場所をつくっていくこと、市民を支援する市民団体の取り組みを推進することなど。市民福祉の向上のためには、市民自らができることを自主的に動いて他を支えること、行政がシステムで動きを支えていることが実感できること、両面の理解が大切と感じる。そのあたりについて、庁内推進委員会と当委員会との自主性・自立性の相互尊重による成果目標設定を検討することで進展できるように感じます。</p>			
<p>行政側 具体的な課題を絞り検討していくことで、協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考える。事務局として会議の運営について調整し、実践できる方策を整理していきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2019	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年9月15日 場所： 市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民が様々な形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業等の活動紹介と展示、模擬店出店、バザー
(5) 事業経費(決算額)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市社会福祉協議会 参加人数： 3,700名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 事業実施、広報活動（広報おうめ以外）  行政側： 作業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

年に1回、様々な団体や施設、市民等が交流できる場として効果があったと考える。また、毎年被災地支援として募金・被災地特産品販売等を継続的に行っている。今年も震災時役立つ新聞紙を使用したスリッパづくり、募金、被災地支援のパネル展示等を行い、広く市民へ支援活動をPRすることが出来た。

#### 行政側

役割として、広報掲載・周知を行った。多くの来場者をむかえ、ボランティア団体の活動状況などについても周知でき、有意義であった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

毎年の課題であるが、駐車場の運営についてのトラブルが多い。来場者への案内方法等、再度検討・改善が必要である。また、参加団体が増加することによって全団体ヘルールが伝わっていないケースが見受けられる。事前説明会で周知の徹底を図りたい。

#### 行政側

市民活動団体の紹介等の場としての充実を図っていく必要があると思われる。協働事業として今後確立させるため、事前協議と当日の役割分担を明確にしていきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座 「クラウドファンディング活用講座」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------------------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和2年2月6日 場所: 市役所2階会議室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化することで新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民活動団体が安定した活動を行い、持続的に発展していくために
(4) 実施内容(実績値等)	「クラウドファンディング活用講座」 講師:株式会社CAMPFIRE 照井 翔登氏 参加人数: 21人
(5) 事業経費(決算額)	市民活動団体支援講座講師報奨金30,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数: <b>3名</b>
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、青梅ボランティア・市民活動センターとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 受付・広報  行政側: 企画・受付・運営・広報

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

登録団体等ボランティア・市民活動団体へ広く周知することが出来た。

行政側

青梅ボランティア・市民活動センターでの周知をしてもらうことで、各団体に周知することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今回は、ボランティア団体からも要望のあったテーマで開催することが出来た。今後もボランティア団体が必要としているテーマを講座内容に盛り込めるよう、市担当者と考えていきたい。

行政側

今後も講座内容、広報について青梅ボランティア・市民活動センターと考えていきたい。

事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年6月、9月、12月、令和2年3月 (年4回発行) 場所： 小曾木地区、小曾木市民センター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)
(2) 事業の目的	おそきだよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、おそきだよりの発行をする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る
(4) 実施内容(実績値等)	情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。
(5) 事業経費(決算額)	190,364円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： おそきの学校と地域を考える会 参加人数： 38名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民提案協働事業申請により採択された事業
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、情報収集、編集、発行、配布  行政側： 経費の負担、配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

地域課題を共有し地域の一体性を高める効果は、紙媒体を使うことで特に高齢者層で高いことが日頃の反応よりわかる。全戸配布にすることにより、各家庭に置かれることにより「広報おそきだより」に近い周知度を確保している。また、毎発行号をファイルし家庭に保存してくれているご家庭もかなりある。地域が主体で協働で行われる好事例となっていると考える。

#### 行政側

行政だけでは行えない市民の身近な情報や地域の課題を掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市内各地域が主体性を持って取り組みめるよう各市民センターにも置いている。市内各団体での関係紙を発行して市内全戸配布する形も増えたように思うか、今後も機運の醸成を図よう展開したい。

令和元年度から高齢者の地域参加感を向上させるため高齢者クラブへの寄稿も積極的に開始した。

#### 行政側

地域に関する新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。また、他地域への波及効果を期待したい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎年 場所： 青梅市役所会議室他
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年4月)
(2) 事業の目的	男女平等情報紙を通じて市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(4) 実施内容(実績値等)	情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行(31,000部×年2回)、配付を行う。
(5) 事業経費(決算額)	1,051,856円 (印刷製本費608,220円、配送手数料385,636円、謝礼金48,000円、報償品費10,000円)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、mamanicotto、市民一般公募(1人) 参加人数： 各団体1人計4人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行、配付

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

幅広い年代に現在関心があるテーマについて、行政側と市民が意見交換して進めていくことができた。取材先との調整や編集作業など、行政側の知識や情報に助けられてまとめることができた。

#### 行政側

市民と協働で発行することにより、協働する市民のそれぞれの得意分野を生かすとともに、市民目線のわかりやすく読みやすい情報紙が発行できた。また男女平等参画にかかるといえる意見交換の場としてもよい機会である。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

委員会の全員が集まるのが難しく、行政側の日程調整にご苦労をかけたと思う。  
男女平等参画社会について、原点に戻り、市民が疑問に思う声を聞いて反映できる紙面になるとよいと思う。

#### 行政側

男女平等参画社会の実現を目指し、行政が発行する情報紙として、表記や表現に配慮しつつ、市民にとって身近でわかりやすい内容の情報紙を発行することが重要である。協働する市民側のライフスタイルに配慮した運営が必要である。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ネッツたまぐーセンターあそびば文化祭	担当課	市民活動推進課青梅市民センター
------	--------------------	-----	-----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年11月23日・24日 場所： ネットたまぐーセンター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年)
(2) 事業の目的	青梅市民センター文化祭からの継続事業 ネットたまぐーセンターを利用する自主グループによる作品展示、演技披露等を通じて、サークル活動を地域住民に紹介するとともに、ネットたまぐーセンターを交流の場として活用し、文化の輪を広げる
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	ネットたまぐーセンター利用自主グループの発表の場を設けるとともに、ネットたまぐーセンターを交流の場として活用することで、文化の輪を広げる機会とする
(4) 実施内容(実績値等)	ネットたまぐーセンター利用自主グループの作品展示、演技披露等(延べ来場者500人)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 9,537円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	<b>2.事業共催</b>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： ネットたまぐーセンターあそびば文化祭実行委員会 参加人数： 21団体
(3) 協働の提案者	<b>1行政からの提案</b>
(4) 協働の理由・きっかけ	ネットたまぐーセンター利用自主グループの発表の場を設けるとともに、ネットたまぐーセンターを交流の場として活用することで、文化の輪を広げるため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<b>1. 計画段階</b> その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 年4回の実行委員会に参加し、文化祭の内容について協議を行う 文化祭の準備・撤収を主体的に行う 行政側： 実行委員会の事務局業務を行う

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

協働として実施することで、施設利用団体合同の発表の場を持つことができ、団体相互の交流を持つことができた。

#### 行政側

普段は貸館業務が主であるため、施設利用団体と交流できるいい機会となっている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

青梅市民センター文化祭から移行するにあたり、文化交流としての考え方や新たな会場に混乱が生じた。文化祭が発表の場としてだけでなく、文化の輪を広げる「あそびば」となるように取り組みを強化していく。

#### 行政側

ネッツたまぐーセンターを交流の場として活用していくため、文化祭が施設利用団体の発表の場としての側面のみにならないよう、体験コーナーを多く設けるなど、文化の輪を広げる取り組みも強化する。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 令和元年7月20日、 第2回 令和2年3月6日 場所:長淵市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 65,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: センター運営全般について協議する  行政側: センター運営全般について協議する

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にしたい。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			
事業の様子(写真等)			
無し			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵地区文化祭	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 令和元年11月9日、11月10日 場所:長淵市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 年 月)
(2) 事業の目的	長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	
(4) 実施内容(実績値等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(5) 事業経費(決算額)	支出額:5,940円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:長淵地区文化祭実行委員会 参加人数:29団体および個人出展12人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側: 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。

#### 行政側

市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

発表の場所等のより良い会場づくり。

#### 行政側

参加団体、入場者数の増加方法の検討。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 第1回(令和元年7月26日) 第2回(令和2年2月20日) 場所: 大門市民センター会議室	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 大門市民センターの効果的な活用および適正かつ円滑な運営について協議をすること。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地域の団体や利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの在り方についてや、大門市民センターの利用状況、住民票等の交付状況、文化展の開催等の行政との連絡や地域への情報発信等について。	
(5) 事業経費(決算額) 80千円(運営協議会謝礼金)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 第三支会、スポーツ推進委員、子供会育成会、防災対策委員会、霞老壮大学、中学校長 参加人数: 保育園園長、利用者団体(各1名) 公募委員(2名) 計10名	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担 市民側: 地域の特性や住民ニーズに応じた市民センター運営と地域の市民活動団体の拠点としての活用に向けたセンターの運営全般について提言をする。 行政側: 提言をセンター運営に活用する。	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側		市民センターの効果的な活用とサービスの向上について意見交換が出来た。	
行政側		市民センターが地域に密着している関係から、市民の声が行政に反映された。行政から地域へ向けた色々な情報の発信源として、市民センターが地域の拠点として有効な存在であった。	
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側		活発な発言が出来るよう相互の信頼関係をより深める。	
行政側		市民センターをよりよく利用してもらうために、協議会の意見を尊重して運営に務めていく。	

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年11月23日・24日 場所: 大門市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 年 月)
(2) 事業の目的	大門市民センター利用団体および地域住民の活動成果の発表の場とするのと、地域市民に活動を紹介することで市民センターを交流の場として、団体と住民との親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動および地域住民の発表の場として
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体と地域住民の作品を展示、発表する事と大門地域のふるさとまつりと同時開催する事の相乗効果で1,386人の観覧者が訪れた。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 6千円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 大門市民センター文化展実行委員会 参加人数: 108(参加団体加入者および実行委員)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の自主性の向上と活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 団体代表者が実行委員として会の運営に当たる。前日および最終日に行政側と共同で会場設営・撤去等を行う。文化展開催中は各団体が1時間交替で受付に当たる。  行政側: 実行委員会を開催して協議を行なう。展示等に必要な備品、消耗品を用意する。展示パネルの設営・撤去を行う。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会があることで、多くの来場者に活動の成果を見てもらうことが出来た。展示に至るまでのプロセスを行政側と協働することで、意見を述べやすくなった。			
行政側 施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることが出来た。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 参加者の高齢化が著しく、活動を継続するのが難しくなっている団体があるので、発表の場を兼ねて新規の加入を促す活動を行う。			
行政側 来場者を増やすための方法を検討する。			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和2年3月28日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年2月)
(2) 事業の目的	地域に住む人同士の交流と親睦を図り、身近な地域の歴史を学ぶ。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの市民の参加により、幅広い年齢層と交流し親睦を深める。
(4) 実施内容(実績値等)	霞川を散策しながら、講師から地域の成り立ちから現代に至るまでの歴史を学ぶ。
(5) 事業経費(決算額)	なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数: 1名(予定)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	大門地域(霞川流域)を活動拠点としていたので、事業を実施したい旨を相談したところ、目的が合致したため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講師との連絡調整 事前協議 当日の引率  行政側: 事前協議 広報等での周知と参加者募集 当日の資料準備と引率

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止となったが、例年多くの参加者があり、また、リピーターも多いことから、この事業を継続して開催することは意義があると考えます。</p>			
<p>行政側                      協働団体には当日まで純準備作業、関係者との調整を精力的に進めていただいたが、やむを得ず中止とした。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      市民に活動を伝える機会となるので、より広い地域を対象として今後も協働事業を行いたい。</p>			
<p>行政側                      テーマや場所を替えながら、大門地域を広く知ってもらえるように協働事業を実施していきたい。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 令和元年9月2日(月)、第2回 令和2年3月11日(木) 場所： 梅郷市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円(第1回 5,000円×8人、第2回 5,000円×10人)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、五小PTA 1名、青梅女性防火防災の会 1名、利用団体 2名、公募 2名 参加人数： 10人(男性7名、女性3名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターの運営状況を知ることができ、また、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝える場となっている。			
行政側			
市民からの率直な意見が得られやすい機会になっており、市民センターの運営等について要望等を得るうえで有益な場となっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。			
行政側			
当協議会は形骸化しており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			
行政側からの情報提供に対し、市民側は理解を深め、良い意見交換が行われている。			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年11月10日(日) 場所： 梅郷市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和55年11月)
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。 令和元年度実績: 出品数561点 観覧者数525人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施のための消耗品等経費 86,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数： 23人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅郷市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 文化祭実行委員会での打合せ、文化祭会場の設営および片付け 行政側： 文化祭実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

施設利用団体や地域住民の成果発表の場として、また、団体相互の親睦、地域住民の交流の機会として効果がある

#### 行政側

施設利用者の活動成果の発表の場作りにおいて市民側との意見交換ができ、団体・地域住民の交流、親睦に効果がある

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

施設利用団体、地域住民の活動成果発表の場としてのより良い会場づくり

#### 行政側

参加団体および入場者数増の方法の検討

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 令和元年9月13日 第2回 令和2年3月5日 場所:沢井市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の事務、地域団体の事業に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告および協議
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 75千円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第5支会支会長(1)、自治会長(1)、スポーツ推進委員(1)、消防団団長(1)、高齢者団体(1)、PTA会長(1)、沢井市民センター利用団体代表者(2)、公募委員(2)。委員定数10人。 参加人数:9月13日の出席者は7人。3月5日の出席者は8人。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側: 助言を活かし、市の事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからも一層活用する。			
行政側 現状および情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとして、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年11月10日(日) 場所: 沢井市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和54年11月)
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会を提供する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者数700人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容(実績値等)	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 20千円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 「第5支会」約10人。「清涼会」(老人会)約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体約200人参加。 参加人数: 859人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用自主グループの作品・実技、また農産物等をより大勢の人に鑑賞・観賞していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ 行政側: 主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片づけ

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。

#### 行政側

事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

若い世代の参加および来場者が少ない。

#### 行政側

市民センター利用団体も高齢者が多いので、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 8月2日(金) 第2回 2月19日(水) 場所： 小曾木市民センター 会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 20年 4月)
(2) 事業の目的	小曾木市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	小曾木市民センターの運営を適正・円滑に行い、かつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	小曾木市民センターの利用状況、図書館の利用状況、令和元年度の予算の概要、市民センターの教室・文化祭等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 100,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:自治会連合会第6支会3人、青少年委員1名、民生委員1名、市民センター利用団体3名、公募委員2名  参加人数: 延べ 20人 (第1回目 10人 第2回目 10人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階  その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センターの運営と地域の市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。  行政側: 地域の発展に向けて市民センターのあり方について検討する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側			
住民と行政との意見交換が活発に出来、今後の運営改善に期待が持てた。			
行政側			
率直な意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
緊急避難所としての役割が期待されており、住民要望を取り入れ利用しやすい施設運営を希望する。			
行政側			
当協議会は、設置から10年が立ち、運営も固定化していきるので、個々の市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年11月9日、10日 場所: 小曾木市民センター
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年 4月)
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果として作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小・中学校総合学習の成果発表、農産物の展示、販売を行った。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金で運営している。 令和元年度支出額 11,620円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 <b>2 事業共催</b> 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数: 参加団体19団体、一般観覧者631人
(3) 協働の提案者	<b>1 行政からの提案</b> 2 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 <b>2 実施段階</b> 3 その他 その他の場合具体的に( )
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作品の展示片付け 行政側: 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民センター利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。

#### 行政側

行政と市民とが協同して文化祭を実施するなかで、市民にとって市民センターがより身近な存在となる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市民センター利用団体および文化団体が高齢化等の理由から解散や参加を取り止めるなどにより、参加者が減少傾向にあり、何らかで参加者等を増やす方法を検討していきたい。

#### 行政側

土地柄を生かした農業者振興会による農産物の展示販売が人気が高いので是非続けたい。これからも、より多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年8月2日、令和2年3月予定であったが新型コロナウイルス拡大防止のため中止 場所： 成木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( H20 年 4 月)
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成30年度センター施設利用状況、令和元年度(平成31年度)市民センター予算概要・令和元年度(平成31年度)センター生涯学習事業の実施予定
(5) 事業経費(決算額)	成木市民センター運営協議会委員謝礼金 35,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第7支会、第7支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、成木地区教育環境等研究会、施設利用団体のスポーツ団体・文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数： 10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年11月9日、10日 場所： 成木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 17 年 6 月)
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	87千円(87,021円)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 成木地区文化祭実行委員会 参加人数： <b>29</b> 団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。

#### 行政側

行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。  
より親しみやすい市民センターへ

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき

#### 行政側

土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。  
地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容


(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年5月26日 場所： 成木市民センター～常盤林道
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 2007 年 8 月 19 日)
(2) 事業の目的	恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標参加人数300名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容(実績値等)	ヒルクライム(自転車で山道や坂を上る)競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費(決算額)	市予算なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数： <b>212名</b> (レース参加者(棄権等除く))
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域の一体化を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 開催準備、交通整理、受付、撤収  行政側： 準備品用意、交通整理

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相互理解、地域の親睦、つながりが深まる			
行政側 行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要			
行政側 駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保			
事業の様子(写真等)			
			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 令和元年8月1日 第2回 令和2年2月6日 場所： 東青梅市民センター第1会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な運営や活用方法を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策第八支会地区委員会1名、東青梅老壮大学1名、センター利用団体からスポーツ団体1名、女性防火防災の会1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人青梅こども未来1名、公募委員2名 参加人数： 延べ19名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を検討する。  行政側： 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対し、利用者の視点から意見や要望を伝えることができた。			
行政側			
市民の代表から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
東青梅1丁目地内諸事業用地等利活用構想について、避難場所としての市民センターの役割や、ホールの形態など、利用者の関心が非常に高い。利用者の声を十分反映し、より使いやすいものとなるよう、今後の動きに注視していきたい。			
行政側			
利用者の視点で出された意見等を集約し、市民センターの運営に反映させる役割を果たしてきたが、最近では形骸化してきている。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年10月26日(土) 、27日(日) 場所： 東青梅市民センター
<b>2継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和57年10月)
(2) 事業の目的	市民センター利用者および地域団体などの文化活動の成果を発表する機会を設け、地域の文化活動の向上を図っていくこと。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民の文化活動の向上および地域住民相互の親睦を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センター利用団体および一般公募等の作品の展示、演奏。 作品数446点および37曲の披露 来場者1,168人(ささえあいフェスティバル作品数を含む)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 26,827円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 東青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 22人(参加団体数+支会三役)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域文化の向上および成果の発表の場
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会委員、各団体の作品選定および飾付、会場設営、団体内の連絡・調整、舞台運営の一部 行政側： 会場の確保、広報、作品公募、文化祭運営、実行委員会の開催、展示資材(パネル等)の確保

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

発表の場があることで、日々の活動の励みになっていると同時に、一つの事業を協力して実施することによって、利用者同士の交流が深められる。

#### 行政側

事業を実施していく過程で、市民センター利用者との意見交換等を図ることができるため、日ごろの活動においても親しみやすい関係を築くことができる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

サークルの解散・高齢化等により参加団体が減ってきている。

#### 行政側

参加団体が減少傾向にあるため、積極的に参加を呼び掛け、新たな参加団体の開拓も必要と思われる。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	------------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年10月27日      作品展は10月26日から 場所: 東青梅市民センター
<b>2継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年10月)
(2) 事業の目的	第八支会と第八支会関連団体および管内小中学校、保育園、ボランティア団体等と連携して、地域の自治会活動の活性化、見える自治会活動を図るとともに、東青梅市民センター文化祭と同時開催をすることにより地域の文化事業の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	1 新たな視点(小中学校・保育園との連携、地域活動団体の紹介)を通し、自治会活動の見直しおよびこれからの見える自治会活動につなげる。 2 来場者の増加を図り、文化祭を充実する。(センター事業のPR、文化団体の活性化)
(4) 実施内容(実績値等)	1 小中学校生徒、保育園児、自治会員有志による作品の展示(作品数312点) 2 安協、青少対、環美の活動紹介および守る会と青梅警察による防犯の呼びかけ 3 農産物の販売(地産地消) 4 障がい者支援団体・ボランティア団体・NPO法人の活動紹介および物品販売 5 演技披露(キッズダンス、お囃子、阿波踊り、かっぼれ)
(5) 事業経費(決算額)	事業総額 1,355,620円 (地域の底力再生事業助成金 1,000,000円、模擬店売上 116,700円) 支会負担 238,920円 行政負担 なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市自治会連合会第八支会 参加人数: 第八支会役員等スタッフ 34人      参考: 団体参加者(小中学生等作品提出者含む) 約350人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成28年に第八支会が50周年を迎え、新たな視点での自治会活動を展開するため。来場者が減少していた東青梅市民センター文化祭の活性化の相乗効果を図るため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 会場設営、小中学校・保育園・自治会員へ作品提供依頼、回覧による周知、フェスティバル運営、来場者整理、参加団体の支援、自治会加入促進活動、文化祭会場設営・撤去手伝い 行政側: 会場の確保、市民活動・障がい者支援団体への参加の呼びかけおよび調整、地域の底力再生事業助成金の申請・実績報告、ポスターの作成、予算管理・決算報告等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 自治会を初めとした地域団体の活動内容を多くの来場者に周知することができた。			
行政側 市民センター文化祭と同時開催することにより、相乗効果で文化祭来場者が大きく増加した。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 この事業を継続していくことによって、地域団体へのさらなる理解を深め、自治会への加入促進につなげる。			
行政側 新たな団体の参加について広く呼びかけ、賑わいのある事業としていく。			
事業の様子(写真等)			
			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	親子ヨガ教室	担当課	1 市民活動推進課 2 東青梅市民センター
------	--------	-----	--------------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和2年3月15日(新型コロナウイルス感染症対策のため中止) 場所： 東青梅市民センター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	親子のスキンシップを図ると同時に、ストーリーに合わせながらヨガのポーズをとったり、身体を動かしたりすることで、子育て中のママや子どもの健康促進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	親子のスキンシップを図りながら、親子ヨガの存在を認識してもらおう。
(4) 実施内容(実績値等)	新型コロナウイルス感染症対策のため中止
(5) 事業経費(決算額)	中止のため、講師報奨金等経費無し。

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： ままにこっと 参加人数： 新型コロナウイルス感染症対策のため中止
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ままにこっとスタッフが持っているそれぞれのスキルを生かし、市民活動団体の活動を市民に知ってもらおう。また、親子の絆づくりを図りながら、健康増進を行う方法を学んでもらい、それを子育てに活用してもらおうため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 講師の確保、ホームページ等を利用した事業の広報、チラシの作成、教室内容の企画・提案・運営、教室で使用する材料・消耗品の用意 行政側： 講師報償金の負担、会場の確保、参加者の受付、事業の広報、行政が用意する消耗品の用意

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた(事業中止のため「1」とした)	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された(事業中止のため「1」とした)	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった(事業中止のため「1」とした)	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った(事業中止のため「1」とした)	1	1
(11) 協働による効果			
市民側 ・事業実施前より行政側との十分な話し合いによりスムーズに広報への事前告知をすることができた。			
行政側 ・スタッフが少ない市民団体ではあるが子育て世代に団体を知ってもらうことができている。 ・団体の持っているスキルを十分に生かしている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、実施段階までには至らなかったが、具体的な内容まで詰められているため、新型コロナウイルスが収束した段階で、再度の実施に向けて行政側と調整したい。			
行政側 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、実施段階までには至らなかったが、具体的な内容まで詰められているため、新型コロナウイルスが収束した段階で、再度の実施に向けて「ままにこっと」と調整したい。			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年8月15日(第1回)、令和2年3月5日(第2回) 場所： 新町市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 20年 4月)
(2) 事業の目的	新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	新町市民センターの利用利便性および利用率の向上を図る
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、センター実施事業等について報告・協議を行うとともに、センター文化祭の実施計画及び役割分担等について協議する。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円(第1回 45,000円 第2回 45,000円)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：自治会連合会第9支会2名、青少年対策新町地区委員会1名、青梅市スポーツ推進員1名、小学校PTA1名、中学校PTA1名、 利用団体代表2名、市民公募2名 参加人数： 委員定数10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に( )
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの運営について検討・協議するとともに、実行委員会の中心として、センター文化祭について企画運営を行う。 行政側： センター事業の実施状況について報告するとともに必要な情報の提供に努め、運営協議会での協議検討結果を運営に生かす。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者の意見を行政に伝え、運営に生かすことができた。			
行政側			
市民センターの運営等について地域や利用団体等からの様々な意見や要望を聞くことにより、センター運営に資することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
これまで以上に利用しやすい市民センターとなるよう、意見要望してくとともに具体的改善策などさらに積極的に関わっていくことが必要と思われる。			
行政側			
地域や利用団体からの意見集約とその反映は重要であるが、近年協議会がやや形式化してきていると考えられ、各市民センターごとの設置の必要性も含めて検討すべきである。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年11月9日～10日 場所： 新町市民センター本館および体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 年 月)
(2) 事業の目的	新町市民センター利用団体などの文化活動の発表の場として、地域の文化活動の発展を図るとともに地域住民の交流とコミュニティ活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域住民等の文化活動の成果発表の場として、またふれあいの場として文化祭によりセンターに来館し活動することにより、地域住民の交流による地域コミュニティの活性化を図る。 数値目標： 参加団体20団体、体育館入場者数 2日間合計750人
(4) 実施内容(実績値等)	作品展示、舞踊・演奏・詩吟等の演技、模擬店および地元農産物等の販売など 実績： 参加団体数 24団体、個人参加2人、 体育館入場者数 2日間合計739人
(5) 事業経費(決算額)	支出決算額 72,713円(消耗品費、パネル運搬費、文化祭用白布等洗濯代等)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：新町末広町地区市民文化祭実行委員会 参加人数： 49人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に( )
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う。 行政側： 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備を行う。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効であるとともに、文化祭に参加することにより地域の交流が図られている。

#### 行政側

地域の方々の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施されている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

新たな参加団体もあったが、固定化や高齢化もあり一部マンネリ化している。地域の活性化のためにも、参加者の範囲、規模の拡大が求められる。

#### 行政側

参加者、来場者がより楽しめる文化祭とすべく、新規団体の開拓を行うとともに、新たな視点による実施等が求められる。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ共催事業	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-----------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年5月18日、8月21日、11月30日、令和2年1月18日 場所： 新町市民センター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 20年 4月)
(2) 事業の目的	日本環境協会こどもエコクラブ登録団体のおうめこどもエコクラブと共催で市内の子供たち及びその保護者を対象として講座を開設し、自然環境保護等について楽しく学ぶ場の提供を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	楽しくエコ、自然環境保護等について体験講座や見学会を通じて学ぶ 目標：年間6回程度実施、参加者述べ120名
(4) 実施内容(実績値等)	体験講座4回 述べ参加者 47人
(5) 事業経費(決算額)	おうめこどもエコクラブが負担(材料費等実費の一部について参加者から徴収)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おうめこどもエコクラブ 参加人数： 講師、スタッフ 4回述べ17名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめこどもエコクラブの新町市民センター利用による、講座開催のための施設利用申し込みをきっかけに、年間を通じた子供向けのエコに対する講座を開催し、地域活動の活性化にもつなげる。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に( )
(6) 役割分担	市民側： 体験講座、見学会等の企画、運営 行政側： 体験講座、見学会の周知、PR及び会場確保等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

子供のころから自然環境保護を考えるの取り組みとして体験講座を開催するにあたり、行政と共同することにより、会場確保がスムーズに行えるとともに、周知PRについてより広く周知することができた。

#### 行政側

地域の子供たちを中心に自然環境保護の大切さを勉強するとともに、他地域からの子供保護者の参加も多く、センター事業の拡大にもつながっている

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

さらに楽しく学べる講座や見学会に取組、参加者の拡大を図るとともに、開催地域の拡大の検討も必要と思われる。

#### 行政側

楽しく学べる場としての体験講座をさらに充実するとともに、エコや事前環境保護について地域の子供たちや保護者に対しても広く周知を進めていくことが必要とされる。

第1回  
海苔の秘密を探ろう



第2回  
食から自然の恵みを学ぼう



第3回  
青梅の伝統に触れよう



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 令和元年6月20日(木)、第2回 令和2年2月25日(火) 場所： 河辺市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、子育て広場の利用状況、河辺市民センター文化祭等に関する報告と意見交換
(5) 事業経費(決算額)	河辺市民センター運営協議会委員謝礼金60,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第10支会役員2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、スポーツ推進委員1人、都営住宅代表1人、民生児童委員1人、公募委員2人 計10人 参加人数： 延べ12人(第1回7人、第2回5人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの効果的な活用方法の提案、協力 行政側： 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターと地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターと地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を得るうえで有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員の意見交換をとおして、市民センターに効果的な活用方法を検討する。			
行政側			
各協議会において意見交換は行っているが、同様のことの繰り返しとなっており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			
なし			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年10月19日(土)、10月20日(日) 場所： 河辺市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和61年11月)
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センター利用団体の発表の場を設け、地域住民の親睦を図るとともに地域コミュニティの醸成を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店 2日間の延参加者数 1,403人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施のための消耗品等経費 12,638円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 33人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 会場準備、片付け。来場者受付、駐車場管理。 行政側： 参加団体呼びかけ。日程調整、会場確保。展示用資材、音響設備等の提供。舞台発表プログラム作成。許認可申請手続き。広報。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民センターを拠点とする団体や地域住民の発表の場ができ、多くの方に見てもらうことができた。

#### 行政側

場を提供することにより、利用者とコミュニケーションが図られた。  
市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市民センター利用団体、地域住民がより多くの参加、発表をすること。  
参加者の高齢化による力仕事を伴う準備、片付けが負担となってきた。

#### 行政側

参加団体、地域住民参加の増加

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回（令和元年7月4日）、第2回（令和2年2月25日） 場所： 今井市民センター会議室
<b>2 継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況および運営、令和元年度の予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 95,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第11支会2人、青少年対策第11支会地区委員会1人、スポーツ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人、今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 計10人 参加人数： 述べ19人（第1回10人、第2回9人）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。特に今年度は、市民センターにおける飲食の基準等について提言するとともに、基準制定に結ぶことができた。			
行政側 市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。特に今年度は、委員の意見を参考に、市民センターにおける飲食の基準等の策定に結び付けることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側  行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側  当協議会は形骸化している部分もあり、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年10月26日(土)、27日(日) 場所： 今井市民センター体育館、和室
<b>2 継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成13年11月)
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。また、より多くの来場者数を目指す。(昨年度637人)
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い、また、来場者増加策として、同時開催しているふるさと祭りで昨年度試行したスタンプラリーを継続実施し、535人の来場者を得た。
(5) 事業経費(決算額)	文化展実施のための消耗品費 13,384円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	<b>2.事業共催</b>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 今井市民センター文化展実行委員会 参加人数： 述べ127人
(3) 協働の提案者	<b>1 行政からの提案</b>
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<b>1. 計画段階</b> その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会長の協力を得ながら、各団体で会場を設営する。 行政側： 会場の確保と展示用具等を提供する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側

活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。また、チャリティー作品販売の売上金を社会福祉協議会に寄付できた。

行政側

施設利用団体の活動内容の把握と交流を図ることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センター利用団体のより多くの参加、出展、発表

行政側

出展、発表者へのより良い環境づくり。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和2年1月26日（日） 場所： 今井市民センターから霞川遊歩道を経て入間市桜山展望台へのコース
<b>2 継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年1月）
(2) 事業の目的	市民の体力増進、健康保持を目的に霞川遊歩道を中心に歩き、入間市「桜山展望台」で眺望を楽しみ、霞川や茶畑を観察し、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	体力増進、健康保持を目的として霞川遊歩道を中心に桜山展望台まで歩く。多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展につなげる。（100人程度の参加者をめざす。）
(4) 実施内容(実績値等)	早朝の小雨で開催が危ぶまれたが、第11支会役員と事務局で協議の結果、予定どおり実施することを決定した。「桜山展望台コース～眺望を楽しもう～」を実施し、ウォーキングを楽しみ、全員無事に帰還した。早朝の天候から、昨年を下回る79人の参加者を得た。
(5) 事業経費(決算額)	支出なし（青梅市自治会連合会第11支会体育振興経費より支出）

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第11支会 参加人数： 青梅市自治会連合会第11支会 34人、スポーツ推進委員 1人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民の体力増進、健康保持と合わせて霞川の自然を観察しながら、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。第11支会を中心に参加者を集い、地域と住民相互の親睦を深める。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式、閉会式の進行、ウォーキング中の運営、おしるこ・コーンスープの調理配布等 行政側： コースの検討と資料等の作成、消耗品の購入、準備品の用意等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

天候により参加者は若干少なかったものの、市民の体力増進や健康保持と合わせ、桜山展望台からの眺望も楽しめ、参加者相互の親睦を図ることができた。

#### 行政側

行政と地域との親睦と協力を深めることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

より多くの参加者の確保と交通安全の徹底。

#### 行政側

次年度以降の実施に向けた新たなコースの検討。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2019	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年6月1日(土)～6月30日(日) 場所:6/2、6/16市役所 6/2～6/28市庁舎ロビー 6/1～6/30中央図書館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(4) 実施内容(実績値等)	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど
(5) 事業経費(決算額)	256,149円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2019実行委員会、ボランティア等 参加人数:100名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市の施設の中で最も広く集客に適した市役所を使用できること、広報も市の広報と学校・自治会へのチラシ配布があり周知されやすい。また、事務局として職員の皆さんが、6月期間中の長期取り組みや、新規参加者の開拓にも辛抱強く誠意をもって取り組まれることは高く評価します。

#### 行政側

チラシをカラーにして周知効果を高めるなどし、前回より参加者が増えた。また、今回からグリーンカーテンのモニター募集をフェスタ内で行った結果、昨年より参加者が増えたので、環境啓発のイベントとして重要であると再認識した。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

- ・飲食のプラスチック使い捨て食器の削減
- ・芝生広場で展開可能な遊びや工作等の出展者増
- ・毎年無理なく継続できる学習イベント(教材)の開発(クイズ・映像等)
- ・会場全体のアナウンスが不十分なので改善が望まれる。

#### 行政側

雨天時の屋外出店者等への対応について考慮する必要がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和2年3月15日発行 場所: 市民センター等の市内各施設、小・中学校
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年6月)
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の取り組みおよび市内の環境活動の紹介を通じ、環境への意識啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。
(5) 事業経費(決算額)	137,500円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: おうめ環境市民会議 参加人数: 10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案  行政側: 記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	2
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民のみでは私的な考え意見とみられてしまうところを行政サイドからの発行ということで市民に安心して受け入れられる。配布先も管轄の学校児童に一律ということで一定の教育効果、自然環境への各家庭の意識向上が期待できる。

#### 行政側

市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

環境の課題は行政区域のみでは完結しないが、市の発行物としては処分場の25自治体利用などの表記が制約を受けることがある。内容の幅を広げ変化をつけるため環境連絡会議や文化財ニュース・環境報告書等の内容や専門家の意見を取り入れたい、そのための協議の場が欲しい。学校の教員で生物多様性や環境問題を研究されている方と協働できると良い、生徒に伝わりやすくなり、フェスタの参加にもつながる。

#### 行政側

主な読者に親子を想定しているが、興味を持ってもらえる内容か不安な点がある。反響などもないため、どう評価すべきか難しい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	---------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年5月1日～令和元年9月30日 場所: 青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	1,218円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: クールビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。

#### 行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。

#### 行政側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和年7月26日～令和元年8月1日(打ち水ウィーク) ※7月30日に打ち水実施 場所: 青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 打ち水の実践  行政側: 企画と周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。

#### 行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。

#### 行政側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年11月1日～令和2年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	1,241円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。

#### 行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。

#### 行政側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年4月1日～令和2年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。

#### 行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。

#### 行政側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテン事業	担当課	環境政策課 管理係
------	------------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年4月9日～令和元年10月19日(募集の事前告知から表彰式まで) 場所:西東京農業協同組合かすみ直売センター、青梅ガス株式会社本社
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	市内の一般家庭を対象にみどりのカーテンモニターを募集。地球温暖化防止のため、家庭でできる省エネの取組みとして、みどりのカーテンづくりを紹介し、育成のためのゴーヤの苗を配布している。また、葉を上手に育成することが遮熱効果等を高めるため、配布時に育成方法の指導を実施している。育成後は、一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバックし、活用している。
(5) 事業経費(決算額)	238,528円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数:20人程度(表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側:周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務、表彰式会場運営協力

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	3
(11) 協働による効果			
市民側: 環境政策課の方とは、事前にお会いしメールや電話にて打合せを行うことが出来、作業がスムーズに行われたと思う。			
行政側: みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。受賞作品選定において、JA西東京の専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス(株)のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側: ①企画のマンネリ化 ②審査基準・副賞の見直し ③プロモーションの多様化 ④参加者からのレスポンス獲得 ⑤協働実施主体間での事務調整・意思確認の不足 ⑥表彰式を【青梅ガスお客様感謝祭】で行うことの適性判断			
行政側: みどりのカーテン事業全体を通して、参加者の固定化がみられるため、今後は募集の方法や内容を変更するなどして、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体を増やすよう検討したい。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊 ～達人と一緒に楽しく安全な川遊び教室～	担当課	環境政策課管理係
------	--	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年8月25日(日) 場所:市民球技場周辺の河原
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	川での安全な遊び方教室、魚のつかみどりから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等
(5) 事業経費(決算額)	250,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 15名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

多くの方に参加して頂けたと思う。ヤマメをカッターナイフを使って自分でさばくことはなかなかできないと思われ、子ども達にとってもいい体験をすることができたと思う。今後も続けていきたい。

#### 行政側

当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

バーベキューの利用者の方から、「今回のように川原を占有するイベントがある場合、バーベキューの日程を変更するので、イベントの有無が分かるようにしてほしい」と言う要望があった。たまたま今回のイベントに参加されていた京浜河川事務所の方に事情を説明して「京浜河川事務所のホームページでイベントの予定が見れる方法」を検討してほしい旨を依頼した。

#### 行政側

バーベキュー等で河原を利用する方が多い状況で、河原を広範囲にわたって使用するため、配慮が必要と感じた。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年8月3日(日) 場所:市民球技場周辺の河原
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館(多摩川に棲む魚等の展示や解説)。
(5) 事業経費(決算額)	250,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 13名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

広報おうめで広くPRすることで多摩川で安全に川遊びできることを青梅市の多くの市民の方に知ってもらうことができた。また参加して頂いた方は、ライフジャケットを着用し、天候・水量・濁りなどに注意し、複数人で行動するなどの安全対策が重要であること分かって頂けたと思われる。

イベント実施の判断においては、担当課殿からは事前に実施判断のプロセスを提案して頂いていた。当初開催予定の7月28日は実際に実施判断プロセスに基づき延期を決定することができ、実施判断プロセスの有効性が確認できた。

#### 行政側

準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体には積極的に活動していただき、当日はスムーズに事業を実施することができた。一度延期しているため参加者数は減ってしまったが、その分待ち時間等のストレスがなく、子どもたちには思う存分に自然体験をしてもらうことができた。協働による効果はかなりあったと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

特にありません。

#### 行政側

当日は猛暑日のため熱中症対策が課題であったが、運営側で飲み物を提供し、随時水分補給のアナウンスをする等、可能な限りの対策を行った。ただ、開催可否の判断として猛暑をどう捉えるか難しい部分はあると考える。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2019 「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年5月12日(日) 場所: 釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年5月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメのつかみ取り
(5) 事業経費(決算額)	61,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数: 9名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

### (11) 協働による効果

行政との協働により、市広報誌などにより事業の市民への事前通知なども円滑に行われた。用具等の用意、その使用も事前の周到な打ち合わせにより、お互いの不足を起さず、事業の進行も円滑に行われた。市との協働事業であることを参加者も良く理解し、行政と市民団体が協力してこのような事を提供してくれることを参加市民も評価してくれた。

#### 行政側

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

近年、事故、事件等により大切な子供の命が奪われていることを重要視し、もしもの時の安全面の強化を協議し方法を検討していきたい。具体的には標識(リボンなど)を付けさせ参加者と他の侵入者との区別をする、主催者側も良く紹介し合いお互いの顔が解るようにし不審者が紛れ込まないような方法を協議、実行したい。

#### 行政側

今後もさらに多くの子ども達が事業に参加してもらうための工夫が必要だと感じた。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第11回炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年8月21日(水) 場所:奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年8月)
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等
(5) 事業経費(決算額)	250,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:6名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

青梅市共催は市民に安心を与え、青梅市報に募集記事を掲載すると、順調に申込があり、キャンセル待ちが出るほど大きな反響があった。  
また、ライフジャケットの貸出しや、当日のスタッフとして全面的にご協力を頂く等、協働による効果は絶大であった。

#### 行政側

内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き窯を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

当日の運営に関しては、経験のある指導員を十分に確保し、安全には万全を期しているが、今後も事故には細心の注意を払って臨みたい。弁当等のゴミについては、各自持ち帰りを徹底し、引き続きゴミの減量に努めていく。

#### 行政側

事業の細部まで行き届いているが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。また、炭焼き小屋に老朽化等が見られたので、事業継続の観点からすると改善が必要になる可能性がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	親子魚釣り教室2019 (お父さん頑張っ！)	担当課	環境政策課管理係
------	---------------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年10月20日(日) ※台風の影響で中止 場所:奥多摩フィッシングセンター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年10月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	溪流釣りの未経験の参加者に、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(台風の影響により中止のため)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 稀に見る大出水であり中止はやむを得ず、行政側からの参加者への中止連絡もしっかり行って頂き感謝したい。</p>			
<p>行政側 協働団体には当日まで準備作業や、関係者との調整、周知活動等を精力的に進めていただいていたが、やむを得ず中止とした。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 今迄は天候に恵まれイベントを開催出来たが、今後本年のような大型台風の襲来も大いに予測される。その時のため行政との連絡はより密にして的確な判断をして行きたい。</p>			
<p>行政側 中止の判断については妥当なものであったと考える。</p>			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	じゃぶじゃぶ川で遊んじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	----------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和年6月15日(土) ※台風の影響で中止 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋と五反田橋の間
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年9月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした自然体験(水遊び、魚捕り、ザリガニ捕り、散策など)
(5) 事業経費(決算額)	18,100円 ※準備に要した経費

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数: 名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 参加者募集手段としての広報おうめの影響は大きい			
行政側 協働団体には当日まで準備作業や、関係者との調整、周知活動等を精力的に進めていただいていたが、やむを得ず中止とした。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 本番・予備日も雨天で中止としたが、季節、川の形状などから安全を考えた場合、中止判断は妥当であったと考える。この点、行政側と息があっていた。			
行政側 中止の判断については妥当なものであったと考える。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだで遊ぼう in 霞川(Part11)	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年8月10日(土) 場所:霞川にかかる藤の木橋上流(藤橋1・2丁目、今井小の上流)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年8月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	手作りいかだに乗って川下り
(5) 事業経費(決算額)	81,300円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数: 6名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

### (11) 協働による効果

市民側 安全対策用に ライフジャケット、ヘルメット等借用できることは、事業をすすめることで大いに助かる。

行政側 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 子ども達の安全を図るため川岸の草を西建さんに依頼して刈るが、その影響で近隣の農家からカメムシが川から畑に移動作物に影響が出たとのクレームがあった。川の草刈りとカメムシとの因果関係は不明だが、カメムシの大量発生は事実である(特定農家)。いかだ遊びも今回で11回目となるが、一度このようなクレームがあった。温度、湿度、日照等自然環境も関係しカメムシの発生は予測できない。開催中止を含めて開催時期、開催場所等の検討の必要がある。

#### 行政側

夏場の水辺での事業になるため、熱中症対策や安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業を参加してもらうための工夫が必要であると感じた。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	お魚釣り	担当課	環境政策課管理係
------	------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年9月28日(土) 場所: 市内を流れる霞川・藤の木橋と城山橋の間
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	霞川での釣りの体験指導、釣れた魚の説明。
(5) 事業経費(決算額)	22,100円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数: 3名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

親そして子どもが魚釣りという同じ目標に向かって楽しんでた。親子の絆がより深まった思う。

#### 行政側

参加者が楽しんでいた光景を見ると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。また、参加者全員が何らかの釣果を得られ、満足して帰られたのは幸いであった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 参加者募集の方法は、今までは市の「広報おうめ」及び「流域の小学校へのチラシ」にを配布をしていたが、今回はチラシ配布は負荷が大きいのでやめました。その結果かどうか応募者が少なかった。広報おうめだけの募集方法ではアピールが足りないのかも。参加者募集の工夫が必要

#### 行政側

さらに多く子どもたちに事業を参加してもらおうための工夫が必要であると感じた。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年6月22日(土)、令和元年11月9日(土) 場所: 青梅市役所西側(正面玄関前)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	里親会を実施する。
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: おうめ猫の会 参加人数: 9人(6月)、13人(11月)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 当日の運営  行政側: 広報等による周知、会場準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

市民側

里親会開催の市民への周知が出来た。

行政側

ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民へのアピールがたりないと思う。  
来場者の数が少ない。

行政側

今後、里親会を他のイベントの会場内で開催することについて協働団体と協議し、来場者の増加を図りたい。





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護週間イベント in おうめ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年9月15日(日)～令和元年9月29日(日) 場所: 青梅市役所本庁舎1Fロビー(正面玄関脇)、青梅市役所2階201・202会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年11月)
(2) 事業の目的	隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	講演会「ペットと幸せに暮らすためのABC」を実施したほか、事業に参加したボランティア団体の活動紹介等に関する展示を行った。
(5) 事業経費(決算額)	7,234円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: おうめ猫の会 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から新たな協働事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 活動紹介等に関する展示ブースの設営 行政側: 広報等による周知、会場準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

市民側

市役所の展示ブースにより猫の会の活動を市民に紹介できた。

行政側

ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、各団体の活動内容も紹介することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

講演会の参加者が少ない。PRが足りない。

行政側

隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会の内容については、市民がより関心を持てるものを選定する必要があると思われる。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年4月1日(月)～令和2年1月31日(金) 場所:市内各所
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年12月)
(2) 事業の目的	公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	実施予定頭数 160頭
(4) 実施内容(実績値等)	手術実施頭数 160頭
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:いのちを考える会・青梅 参加人数:－
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側: 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民の理解を得られやすく、活動も円滑に行うことができたと思う。

#### 行政側

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

「さくら猫無料不妊手術チケット」の広報を行い、広く市民に周知してもらおうこと。

#### 行政側

市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対しても、広報等を活用して周知するよう努めたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課清掃係
------	------------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日 場所：市内
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 4月)
(2) 事業の目的	視覚障害者等のうち、点訳された「青梅市ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	希望者全員に配布する。
(4) 実施内容(実績値等)	令和2年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績4人。
(5) 事業経費(決算額)	13,170円(点字プリンター用紙)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅点訳グループ 参加人数：6人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側：広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
決められた期限を守り、希望される方にカレンダーを届けられた。			
行政側			
点訳を行うには専門的な知識も必要となる事から、点訳を専門とするグループとの協働は大いに効果がある。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
グループとしての役割は、果たせたと思う。 より多くの方に利用していただけるよう、障害者福祉課等の協力が得られないでしょうか。			
行政側			
点訳グループおよび利用者の意見を聞き、さらに多くの必要とされる方に使用していただけるよう、新たな周知方法の検討等も含め広く周知、広報する。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6月および9月の第1日曜日 場所： 大塚山いこいの森(大塚山公園隣接地)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成22年6月)
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	予定： 年間参加人数 延べ200人 実績： 年間参加人数 延べ146人(6月・・・73人、9月・・・73人)
(4) 実施内容(実績値等)	大塚山いこいの森内の清掃、除草、下草刈り作業等
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 0円、食糧費 17,280円      合計 17,280円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区委員会) 参加人数： 146人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等(植栽育成に必要な作業) 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

いこいの森を第四小学校および地域住民の自然体験および学習の場となるよう良好な状態に保全することができた。また、作業を通じ地域の連帯感の醸成が図られた。

なお、植栽樹木の生育状況も良好であり、森として形成されてきている。

#### 行政側

ボランティアと協働で清掃および下草刈り等の管理作業が実施でき、快適な生活環境の創出と市民の自然体験や学習の場として提供することができた。また、作業には、家族連れの方も多く参加している状況から、いこいの森を身近な場所として捉えていただいていると感じられた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

作業日が関係団体の行事等に重なることがあったため、今年度からは開催日の固定化(6月、9月の第1日曜日)を図った。しかしながら、参加者が若干減少傾向にあるため、人数の継続確保対策が今後の課題である。

#### 行政側

大塚山いこいの森ボランティアとの協働による管理により、森は良好な状態に保全されている。また、植栽樹木の生育状況も良好であり、今後は枝払い等の作業も必要となることから、剪定鋏や鋸等の作業道具を揃える必要がある。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課 公園管理係
------	------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 毎月第3土曜日(8月を除く。) 場所： 永山公園内ボランティア管理緑地ほか			
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成15年6月)		
(2) 事業の目的 下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的とする。			
(3) 事業の成果目標(数値目標等)  年間参加人数(予定延べ100人) ⇒ 実績:参加人数 延べ54人(雨天等による中止3日あり)			
(4) 実施内容(実績値等)  下草刈、除伐、枯損木伐採および萌芽更新等を目的とした間伐等			
(5) 事業経費(決算額)  講師報償金 117,000円 ・ 食糧費 22,800円 ・ 保険料 7,650円                      合計 147,450円			

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力			
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 緑地管理ボランティア 参加人数： 延べ54人(登録人数15人)			
(3) 協働の提案者 1行政からの提案			
(4) 協働の理由・きっかけ 公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的として制度を設置した。			
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(			
(6) 役割分担  市民側： 実施作業  行政側： 実施計画の策定			

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

### (11) 協働による効果

#### 市民側

本年度についても、永山公園内ボランティア管理緑地のみの管理作業を実施した。雨天等により実施できない月もあったが、毎月少しずつではあるが下草刈りおよび除伐中心の作業を行ってきた。作業日の関係もあり全区域を終わらすことはできなかったが、その成果が目に見えて確認できることにより、達成感を味わうことができたとともに、ボランティア会員の親睦が深まった。

#### 行政側

永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施したことにより、ハイキングコースからの景観や解放的な空間が確保でき利用者へ快適な環境を提供できた。また、実施した成果が目の当たりに確認できるため、ボランティア活動に対する充実感を味わっていただけたものと考えている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動内容を充実していくには、新規の会員を取り込む必要がある。また、管理区域を有効に活用していただくための園路整備を行う必要があるが、除伐が済んでいる区域の下草刈り作業も同時に行っていかなければならない中、基盤となる除伐を早期に終了させていきたい。

#### 行政側

登録者はある程度いるものの参加者が一定の人となっていることから、一度登録者の整理を行ったところ人数の減少がみられた。会員の高齢化も進んでいることから、会員募集(随時)を行い、若い世代の参加者を取り込む必要がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅の森保全プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課緑化推進係
------	----------------------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年4月から令和2年3月 場所： 青梅の森ほか
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 9月)
(2) 事業の目的	保全活動等を行う各種団体等と協働で青梅の森保全事業を行う。貴重な野生生物の生息の場として、市民と維持体験を行い、未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気楽に利用できるレクリエーションの場として活用するため。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅の森事業計画にもとづく管理、運営を行う。 動植物の観察、ウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に体験してもらい保全活動への理解と環境等に対する意識の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅の森内の下草刈り、除伐、間伐、作業路補修、ヨシ抜き、ヨシ刈り、野鳥観察(41名)、植物観察(7名)、青梅第一小学校5年生総合学習(59名)、原木きのご栽培教室(20名) ※( )内は一般参加者
(5) 事業経費(決算額)	なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅さとやま散歩の会 参加人数： 約50人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の森の事業計画にもとづく運営組織を設置(7団体により構成:組織名=青梅の森保全プロジェクト)
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、運営 行政側： 事務局全般、運営

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

柚保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。  
 柚保プロジェクト共同企画により青梅の森の普及啓発をはかることができた。  
 柚保プロジェクト参加団体の活動及び協働作業により、青梅の森の保全・整備が進んだ。

#### 行政側

台風等による災害等の報告や、応急的な対応等を迅速に行ってもらうことで、青梅の森での事故発生等を未然に防ぐことができた。  
 各団体、活動目的の長所を生かして青梅の森の保全や体験・学習の場とすることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

柚保プロジェクト協働企画の市民向けイベントは、きのこ栽培教室や森林療法の参加は多いが、保全活動の参加が少ない。  
 イベント参加者をリピーターとしてつなぐシステムが不十分であり、登録ボランティア制度の確立が必要。  
 青梅の森で市民参加の活動を行うには、トイレの設置が必要不可欠であると考えます。

#### 行政側

各団体における会員数が減少傾向にあるため、より多くの市民に青梅の森柚の保プロジェクトの活動を通じて、「青梅の森」の良さを知ってもらい、新規会員の加入を促進し会員数を増やし、積極的に「青梅の森」の保全活動ができる環境を整えていきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢者支援課地域支援係
------	------------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所                  期間:平成31年4月1日～令和2年3月31日                  場所:市内一円</p>
2継続事業                      ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
<p>(2) 事業の目的                  市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等)                   市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等)                   市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。</p>
<p>(5) 事業経費(決算額)                   見守りネットワーク連絡会食糧費 3,000円                  見守りネットワーク事業ステッカー作成印刷 151,200円</p>

### 2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態                   3.事業協力</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数                  団体名: 見守り協定締結事業者                  参加人数: 40事業者</p>
<p>(3) 協働の提案者                  1行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ                  協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。                  1. 計画段階                      その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担                   市民側: 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。                   行政側: 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。</p>

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

民生委員や地域において活動する事業者がゆるやかな見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う。

#### 行政側

民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

民生委員に依頼される業務が多くあり、見守り活動に取り組む時間が少なくなっている。  
見守りが必要な対象者を精査し、より効果的な見守り活動を行うことが必要と考える。

#### 行政側

地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢者支援課 包括支援係
------	--------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年 9月から11月までの3か月間 場所: 市内の自治会館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	上記(2)事業の目的に同じ
(4) 実施内容(実績値等)	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費(決算額)	令和元年度支出済額 消耗品104,554円、講師報償金18,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 高齢者クラブ3ヶ所 参加人数: 129人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 会員への周知、会場準備 行政側: ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定(握力、開眼片足立時間、5m歩行速度)

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加することで、地域における自主的な介護予防活動の促進に繋がる。ウォーキング通して、運動の効果や介護予防の重要性を知ることができる。</p>			
<p>行政側                      参加者の健康状態や地域の情報を得ることができ、地域を主体とした介護予防事業の企画・実施に活かすことができる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      高齢者クラブの加入者があまり増えない。介護予防の重要性を一人でも多くの方に知ってもらい、介護予防を推進していけるように高齢者クラブとしても取り組んでいく必要がある。</p>			
<p>行政側                      事業終了後も、自主的に介護予防活動を続けられるように働きかけていきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢者支援課包括支援係
------	----------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年4月1日～令和2年3月31日 場所： 指定場所
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年10月)
(2) 事業の目的	認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成34年までにサポーター数を1万人を目標す。
(4) 実施内容(実績値等)	令和元年度までのサポーター数5,880人
(5) 事業経費(決算額)	令和元年度 テキスト代 歳出 144,440円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 全国キャラバンメイト連絡協議会 参加人数： 青梅市登録キャラバンメイト 65人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	都が企画立案および講師役(キャラバンメイト)を養成し、事業に賛同しサポーターを養成している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族の方を温かく見守り支援する応援者となる。 行政側： サポーター養成講座を養成するための講師(キャラバンメイト)を派遣する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側: 認知症という病気について理解し、対応のポイントや、どのように接すればいいのかを研修受講者に対して適切に伝えることができた。

行政側: 認知症の人も地域で安心して暮らせる充実したまちづくりが形成される。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側: 自治会や企業、高齢者を扱う事業所で広く開催し、理解を深めたい。

行政側: 引き続き、市役所や学校にて講座を行い、さらなる受講者を開拓したい。

### 事業の様子(写真等)

H30年度から市職、小中学校にて開催し、認知症について理解を促した。



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	介護サービス相談員派遣事業	担当課	高齢者支援課包括支援係
------	---------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年4月1日～令和2年3月31日 場所： 市内の特別養護老人ホームや老人保健施設・事業所および居宅
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成14年1月)
(2) 事業の目的	市に登録された介護相談員(公募)が、介護が行われている場を訪問し、利用者からの相談を受けて、サービス提供事業者や行政に橋渡ししながら問題の改善や介護サービスの質の向上を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	介護相談員の問いかけ通して、身体拘束ゼロへの取り組みや虐待防止への取組を進める。
(4) 実施内容(実績値等)	55施設、延べ149回、延べ556人
(5) 事業経費(決算額)	非常勤職員報酬 1,185,475円、旅費 1,598円、研修費 65,880円 消耗品9,550円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 介護サービス相談員 参加人数： 6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成12年度に介護保険制度がはじまり、行政による措置から事業者との契約に移行したことを受け、利用者の権利擁護とサービスの質的向上を目的に創設された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 苦情申し立てに至るほど問題が大きくならないうちに、サービス提供事業者等へ問題を橋渡しし、サービス提供事業者自らが解決を図ることを支援する。 行政側： 国民健康保険団体連合会へサービスの苦情になる前に介護保険者として介護保険事業の機能を十分に監督し被保険者が適切にサービスを利用できるよう権利を守る責務を果たす。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側: 介護サービス相談員の活動を通じて利用者の日常の声をきくことで、サービスの改善点を探る重要な手がかりになるなど利用者だけでなく事業者にも効果が見られる。			
行政側: 市が受ける苦情処理はトラブルが起きた時の事後処理が中心となるが、問題が大きくなる前に未然に解決を図ることができる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側: 令和2年4月1日から介護サービス相談員は会計年度任用職員となるため、協働事業としては令和元年度で終了となる。			
行政側: 令和2年4月1日から介護サービス相談員は会計年度任用職員となるため、協働事業としては令和元年度で終了となる。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢者支援課 包括支援係
------	--------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成18年8月から毎年度開催、令和元年度は2回開催の予定だったが、コロナの影響で年1回。 場所:青梅市役所会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年 8月)
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談をし、課題を共有することで、解決に向けて多方面の専門職から意見を聴取する。
(4) 実施内容(実績値等)	1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費(決算額)	委員報償金 11,500円(予算額23,000円)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:社会福祉協議会の代表、民生児童委員会合同協議会の代表、東京弁護士会の代表、ケアマネジャー連絡会の代表、人権擁護委員の代表、事業所の代表 参加人数:8人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側: 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。</p>			
<p>行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。 ②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。</p>			
<p>行政側 虐待通報の徹底化、早期発見により、関係機関が直ちに介入する体制を今後も強化していき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。緊急一時保護先の確保体制を再構築する。高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動のため、チラシの作成・配布を行う。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	令和元年度 中級手話講習会	担当課	障がい者福祉課 認定サービス係
------	---------------	-----	-----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和元年5月～平成31年2月 全33回 (講習会および行事) 場所:青梅市福祉センター
	<input checked="" type="radio"/> 単年度事業 <input type="radio"/> 2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、聴覚障害者の社会参加を推進すること。 手話による日常会話の技術を習得する。「聴覚障害者」の理解と啓発を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	初級手話講習会終了後、中級手話講習会(定員30人)に移行し、より学びを深め、手話サークル等に属し活動することで、聴覚障害者の社会参加等に寄与していく。
(4) 実施内容(実績値等)	中級手話講習会参加者昼17名夜19名うち、昼12名夜16名が中級講習会を修了した。
(5) 事業経費(決算額)	165,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市聴覚障害者協会 参加人数:ろう講師2名 アシスタント2名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会の運営  行政側: 会場の確保・広報および参加申し込み窓口・講師報償金の助成

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
<b>(11) 協働による効果</b>			
<b>市民側</b> 障害者差別解消法の施行に伴いより多くの市民に手話を学んでもらい障害者への理解を広める為に昨年度同様に昼と夜2コースで開催しました。受講生に「手話は言語である」ことを更に理解してもらえ、嬉しく思います。 協働事業のおかげで講習会会場の予約手続き等を行っていただき、全30回の手話講習会をスムーズに行うことができたことを感謝しております。今後も聴覚障害者の社会参加促進のために講習会を継続していきたいです。			
<b>行政側</b> 平成30年度から、入門・初級手話講習会は昼と夜の2コースで開催し、令和元年度の中級手話講習会も昼と夜の2コースで開催し、手話を学ぶ機会の拡大を図ることができた。受講者の中から手話サークルに入会する受講者がいるなど、地域における聴覚障害者のコミュニケーション支援の担い手養成の役割を担っている。			
<b>(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</b>			
<b>市民側</b> 令和2年度も入門・初級手話講習会では更に聴覚障害者とのコミュニケーションを深めることを目的に昼コースで行います。今後ともよろしくお願ひします。			
<b>行政側</b> 中級手話講習会は、今まで昼の部のみの開講であったが、令和元年度から、夜の部も開講することになった。 手話の技術の向上の機会の拡大を図ることが可能となる。今後も青梅市聴覚障害者協会との協働により、令和2年度には入門・初級手話講習会の実施により、手話によるコミュニケーション能力の向上を図り、聴覚障害者の社会参加を促進していきたい。			
<b>事業の様子(写真等)</b>			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第50回おうめ健康まつり	担当課	健康課健康推進係
------	--------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年5月19日(日) 場所:青梅市役所(1階ロビー、2階会議室等)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和45年 月)
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供等、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自分の健康は自分で守るという自覚を持って健康づくりに取り組むためには、保健衛生に関する知識が必要である。おうめ健康まつりにおいて医療関係者による保健衛生知識の普及啓発を行い、健康に対する意識を向上させ、より効率的に市民の健康づくりを促進させること。
(4) 実施内容(実績値等)	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬などの相談、血管年齢測定、ヘルスチェック、骨密度測定、生活習慣病の予防、栄養に関する展示、転倒予防教室、ランニングのための姿勢づくりストレッチ教室、梅っこ体操講習会、古賀稔彦氏による特別講演会等を実施した。※延べ参加人数5,700人
(5) 事業経費(決算額)	有り 医師等報償金等 492,145円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:【共催】青梅市三師会 【協賛】青梅市薬業会、青梅市接骨師会、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩地区保護司会青梅分区、西東京農協組合、青梅市民生児童委員合同協 参加人数:【共催】青梅市三師会(31人) 【協賛】青梅市接骨師会(9人)、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩(7人)、西多摩地区保護司会青梅分区(22人)、西東京農協組合(2人)、青梅市民生児童委員合同協議会(9人)ほか
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	不明
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側: 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

### (11) 協働による効果

#### 市民側

来場者に対し専門的(医師等)な立場から健康に関する情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。

#### 行政側

来場者に対し、健康づくりに関する情報提供を行い、保健衛生知識の普及啓発を図ることができた。また、歯科ブースのクイズ・ゲームコーナーや、自転車シミュレーター等、親子で楽しめる体験型の企画を行い、家族ぐるみで参加できるイベントを実施することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

来場者の健康状態を把握・分析および相談等を行い、健康づくりに対する意識向上が図れるよう検討していきたい。

#### 行政側

来場者がより高い満足度を得られるよう、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時(平成31年4月末終了) 場所： 永山ふれあいセンター内
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年10月)
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。 (利用者数 221人)
(5) 事業経費(決算額)	243,408円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人青梅ファミリーサポートはあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO青梅ファミリーサポートはあとが「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 乳幼児の親子が安心・安全に過ごせる場所で利用者同士やスタッフとのふれ合いの中で楽しい雰囲気になるよう心がけ、子育てに関する相談、情報の提供をすることができた。多くの利用者からキッズぱーくが閉鎖することに惜しむ声が寄せられた。利用者のスタッフへの信頼感が得られたと自負している。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。また、実施団体のスタッフが、利用者と良好な関係を築きあげたことにより利用者から好評をいただくことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 永山ふれあいセンターの閉鎖に伴い、子育て広場事業に参加することがなくなるが、今後も「ファミリーサポートはあと」として、より良い活動を行うため、子育てに関する研修会等を積極的に行い、学び、知識・情報を得、スタッフが互いに意見交換し実践していけるようにする。</p>			
<p>行政側 公共施設再編により、永山ふれあいセンターは4月末で閉鎖され、本事業は終了した。文化交流センター内の子育てひろばにおいて、乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供し、子育てに関する情報提供や相談事業等を引き続き実施していく。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>乳幼児とその保護者がゆっくり遊べ、憩いの場となっている。こじんまりとしたスペースのため人と人との距離感が近く、保護者同士や保護者とスタッフとの交流があり、キッズぱーくの魅力の一つとなっている。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年10月)
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容(実績値等)	子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 867人 利用件数 1,008件)
(5) 事業経費(決算額)	7,346,634円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： (会員)相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施(NPO法人)事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      地域の実情に沿ったきめ細かい支援ができるよう、地域NPOの特性を活かし、マッチングにも最大限の配慮をしている。提供会員の募集についても、人脈を活用し充実を図っている。</p>			
<p>行政側                      事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。提供・利用会員に丁寧な対応をしてもらい大きなトラブルなどなく事業が遂行された。周知活動も、協働団体が得意とする子どものための楽しいイベントを行うことで、多数の子育て世代を集客することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      まだまだ必要としている子育て家庭へ周知がいきわたっていない歯がゆさがある。また、支援者側も年々高齢化し、可動人員が減っていく中、さらなる充実をはかるための会員募集にご協力を賜りたい。</p>			
<p>行政側                      子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度利用者増加に向けた周知方法について検討しより効果的な方策を行っていきたい。近年利用件数が減少しているため、特に利用件数の増加に向けた対策について積極的に講じていきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>利用会員が提供会員に子どもを預けることで、子どもの預かりサービスだけでなく、地域の住民の緩やかなつながりを醸成する効果がある。比較的、高齢な方が多い提供会員に預けることも多く、多世代の交流にもなっている。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2019	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年11月3日 場所： 市役所2階屋上広場ほか
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 年 月)
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4) 実施内容(実績値等)	異世代交流コーナー、親子交流コーナー、ゲームコーナー、パフォーマンスステージ、模擬店コーナー (入場者数 1, 320人)
(5) 事業経費(決算額)	270, 000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:子どもふれあいフェスタ2019実行委員会(NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の2団体) 参加人数: 実行委員参加人数12名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。  行政側： 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

実行委員会発足から、子ども家庭支援課・社会教育課・市民活動推進課・ボランティア市民活動センターが関わり、それぞれの立場の強みを発揮し協力いただいている。実績を重ねることで理想的な「協働事業」となっていることを実感しており、この事業にとどまらず他の協働にもつながっていることの意味は大きい。初めて市役所を会場として開催し、関係各課に協力をいただき参加団体も増えさらに協働の輪が広がった。「産業観光まつり会場へのシャトルバス利用者」への声かけもでき参加者数が増え、市役所を会場とすることで新たな発見があった。

#### 行政側

子育て支援事業(親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど)を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。会場が永山ふれあいセンターから市役所変更になったが、問題なく対応できた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

- ・課題を一緒に考えることができるのがこの事業の強みとなっている。市民側と行政側の協力により永山ふれあいセンター閉鎖後の会場として市役所を使用できることとなった。より一層、協働の輪を広げていくために実行委員会参加団体を増やしていきたい。
- ・予算の確保が今後の課題と考える。

#### 行政側

補助金が遡減しなくなかでないかに存続させていくかが今後の課題。利益目的のイベントではないため、どこから予算を調達するかを考えていかなければならない。また、産業観光まつりと同日開催した場合、来場者の増加が見込めるものの、駐車場の不足が問題となる。

### 事業の様子(写真等)

- ・子どもとその保護者や、小学生のグループなど多くの人を訪れ盛況だった。販売しているものの価格も安く、小学生がお小遣いの範疇で十分楽しめるイベントとなっていた。
- ・さまざまな年齢層の子どもがイベントを手伝っている。年齢に応じて子どもの役割も変わり、非常に貴重な体験ができています。



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第2土曜日(平成31年4月13日で事業終了) 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年10月)
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児親子のゆったりのんびりした遊びと情報交換の居場所作り</li> <li>・ 学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくり</li> </ul>
(4) 実施内容(実績値等)	NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供(利用者数89人)
(5) 事業経費(決算額)	48,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： 3団体のローテーションで実施。常時2名配置(土曜日のみ3名配置)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 安心安全に配慮し、子どもたちの成長を見守るとともに、現状に応じた適切な支援を行うことができた。利用者の話し相手、遊び相手となり、 ゆったりと楽しい時間を過ごしてもらうことができ、スタッフへの信頼感が得られた。工夫を凝らしたイベントの開催により、多くの利用者に喜んでもらえ、交流を広げることができた。</p>			
<p>行政側 それぞれのNPO団体の持つ得意分野を生かし、魅力ある子育て支援事業を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 ・青梅市民センターには図書館が併設されており、図書館利用のついでに立ち寄る親子や小学生が多かった。文化交流センターにも図書館を併設することが望ましいと感じた。 ・開催時間や利用ルールを知らない保護者が多かったので、その周知が必要だった。 また、子どもを見守る環境を整える為に学校・行政・地域が連携する重要性を感じた。(小学生) ・幼児連れの利用者から、ゆっくと安全にお弁当を食べることができるような場所があればとの要望が多かった。</p>			
<p>行政側 青梅市民センターが文化交流センター内に移設されたため、本事業は終了した。文化交流センター内の子育てひろばにおいて、本事業で行ってきた、乳幼児親子のゆっつりのんびりした遊びと情報交換の居場所作りや学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくりを引き続き実施していく。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>月曜日は乳幼児とその保護者がゆったり遊べ、憩いの場となっていて、保護者同士の交流もある。火曜日・金曜日は小学生の利用が多く、職員の指導の下ボードゲーム等で幅広い年齢層の交流の場となっている。毎月第2土曜日は工作などをし、好評を得ている。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:令和2年3月1日(日) 場所:青梅市文化交流センター 多目的ホール
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成31年3月)
(2) 事業の目的	子育てに関するイベントを通して、子どもの知性や感性を育て、保護者同士が交流を通じて互いの子育てに関する悩みや情報を共有できる場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	乳幼児向けの体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者47名
(5) 事業経費(決算額)	66,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数: 12名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画、当日の指導・運営 行政側: 周知、申込受付、会場・備品の準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報掲載当初は応募が少なかったが、当NPO法人が運営する子育てひろばや自主事業での声かけや行政窓口の協力により、最終的には会場の広さに見合った参加人数で実施する事ができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染が広がり始めた時期の開催となり、参加者及び担当スタッフの安全優先のために「延期が妥当ではないか」と行政に申し入れたが、「今だからこそ安全に留意し予定通り行いたい」との行政側の要請に応じる形での実施となった。感染予防のための「受付時の体調確認・手指消毒」と「会場内でのマスク着用」の徹底と、ホールの扉を開け換気に留意する等、行政との協力により感染防止対策を徹底する事が出来た。</li> <li>・講師が感染予防に留意した「参加者同士が接触しないで楽しめるプログラム」を提供して下さった。</li> <li>・参加者に安心して楽しい時間を過ごしてもらう事ができた。</li> </ul>			
<p>行政側</p> <p>従前から本事業の企画・運営に実績のある団体と協働で実施したことで、参加した乳幼児とその保護者にとって有意義なイベントにすることができた。また、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、感染予防徹底の周知や当日運営上の注意等、協働で行うことで十分な対応ができたと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <p>実施場所の駐車場が有料である事、駐車可能台数に限りがある事がネックであった。今回はウィルス感染防止の為、講師の提供するプログラム内容や時間の変更を余儀なくされたのがのが残念だった。</p>			
<p>行政側</p> <p>限られた予算の中で、どのように充実した事業を確保していくか、工夫が求められる。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課青少年担当
------	----------------	-----	---------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和2年2月2日(日) 場所: 住友金属鉦山アリーナ青梅
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成15年1月)
(2) 事業の目的	青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、綱引き大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	幼稚園・保育園、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計60程度の出場チームより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付・放送・選手・模擬店・会場、賞品および審判等各係による当日の大会運営を行う。 出場参加チーム47チーム、参加人数487人
(5) 事業経費(決算額)	事業実施委託料 570,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会(11地区) 参加人数: 86人(他青梅市スポーツ推進委員協議会、日本綱引連盟公式審判員等総勢約100人)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。 大会前日の準備や当日の運営をすること。  行政側: 事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会や出場チーム組合せ抽選会会議の開催事務、必要物品や各種資材の調達等も円滑に行われている。また、大会運営については、工夫や改善をしながら、スポーツ推進委員や綱引連盟公式審判員、青少年対策地区委員が行うことで、スムーズな進行となっている。

#### 行政側

大会前日の会場設営や当日の出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導について、役員や実行委員が協力し円滑に行った。また、前回までの反省をもとに、それぞれの役割分担の改善を行ない、事前の周知等によりスムーズに進行することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

地域の出場チームの呼びかけを工夫し、出場チームの増加に努め、親子のふれあいや青少年の健全育成を目的に、さらに改善に努め、より良い大会にしてゆきたい。

#### 行政側

反省事項、改善要望、青少年の人口減少等を踏まえ、出場チームの参加資格やルールの見直しを行い、参加者から喜ばれる大会として質の向上に努めてゆきたい。また、協働を行っている実行委員との円滑な連携を図ってゆきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和元年5月25日～6月23日 場所: 吹上しょうぶ公園
2 継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	花しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数82人)
(4) 実施内容(実績値等)	花しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数82人)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費: 3,732円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数: 25人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
(6) 役割分担	市民側: ガイドの実施  行政側: 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

知識を共有するボランティア講義内容になっていて、とてもよかったと思う。新人が楽しく活躍できるように、心配りをした。来園者とともに楽しく、サービスの向上に努めた。

#### 行政側

来園者一人ひとりの要望に沿ったガイドを行うことができ、満足度を高めることが出来た。引き続き来園者の意向に沿ったガイドを推進していきたい。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

行政が運営している他のしょうぶ公園の交流会を実施して、ボランティア活動をより充実していきたいと思う。吹上しょうぶ公園の花の種類を強み、利点とし、青梅市をピアールしていきたいと考えます。また、吹上しょうぶ園のホームページはとても分かりやすく良いと思いますが、新しい企画も追加して、現状に満足せず、更新を続けてほしいと考えます。

#### 行政側

毎年ガイドボランティア加入している現状があるため、引き続き新人の方が活動しやすい環境作りとガイド間の情報共有や専門知識の継承などを行って行きたい。

### 事業の様子(写真等)





協働事業評価シート(表)

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	-----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:令和2年3月7日、8日、14日、15日 ※コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 場所:梅の公園
2継続事業
(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 梅まつりの来園者へのガイド(述べ活動人数22人)
(4) 実施内容(実績値等) 梅まつりの来園者へのガイド(述べ活動人数0人) ※コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
(5) 事業経費(決算額) 56,604円 ※準備に要した経費

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:梅の公園ガイドボランティア 参加人数: 0人 ※コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
(3) 協働の提案者 1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 梅の公園利用者サービス向上
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: ガイドの実施 行政側: 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
(11) 協働による効果			
市民側 事前に担当課、担当者を交え、意見交換や要望を上げることができ、円滑な準備を行うことができた。かつての梅の公園を上回る多品種の梅が植栽されたことを機に、ガイドボランティア有志で積極的に勉強する機会が得られた。			
行政側 昨年ガイドボランティアが復活し、今年も来園者にサービス向上を目指し実施に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症対策のためやむを得ず中止とした。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 植樹された木によっては、樹名板の非表示、記載誤りなどが見られる。ガイドを行う上で、樹名板は不可欠なものですので、整備の拡充、是正をお願いしたい。梅まつり開催前に限定せず、協議の場が設けられれば、さらにガイドの充実が図れると思います。			
行政側 ガイドボランティアが再開できたばかりであったため、今年の中止は非常に残念な結果であった。今年度は、ガイド同士の情報共有や今後の活動について話し合いができ、とてもよかった。今後もガイドがスムーズに行えるよう話し合いをしていきたい。			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林水産課林務水産係
------	--------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和元年5月11日、7月13日、9月14日、12月7日、令和2年1月11日、3月14日(中止)(計5回) 場所: 青梅の森 他	2継続事業 事業の開始時期(平成14年度)2年1期で9期2年目
(2) 事業の目的  森林ボランティアの育成を図る。平成22年度からは杉並区との共同開催となっている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等)  年間6回の講座開催。 講座受講者28人(青梅市13人、杉並区15人)	
(4) 実施内容(実績値等)  下草刈り、間伐、道づくり、枝打ち等。	
(5) 事業経費(決算額)  森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額866,000円 バス借り上げ料127,955円	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態  4.事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数: 毎回10~15人程度	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階  その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担  市民側: 講座内容の決定、資機材の準備、当日の実技指導 等  行政側: 受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

日本の山林の状況をよく理解することができた。森林作業を体験することにより、森が変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れて行くことの大切さがわかった。今後も森林保全に関わっていきたい。青梅の森の保全活動も進んだと思う。青梅の森をはじめ、作業内容にあった市有林で、様々な作業ができることは、受講生にとって良い環境ができています。また、青梅の森の保育保全も進んだ。

#### 行政側

青梅林業研究グループには、森林施業に対する深い知識や技術を持ち合わせた者が多く在籍し、本講座以外にも多くの場で指導を行っており委託先としてふさわしく、受講生からは親切・丁寧な指導に対して感謝のことが多く寄せられている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

今後も継続して森に関わっていける場を考えて欲しい。また、さらに技術を勉強できる機会があればいいと思う。より多くの方が森林保全に関わっていけるといいと思う。全12回の講座で、欠席者が少なくなるようにプログラムの充実を図りたい。この講座を受講することにより、さらに森林に興味を持ち、スキルアップができるよう、またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。

#### 行政側

前年度では積極的な受講希望者の減少という問題をお互いの話し合いの中から、体験会の実施や募集周知方法の改善によって、30年度には回復を図ることができた。今後は、受講生の高齢化問題や欠席者の増大などに対して、魅力的なカリキュラム等で講座自体を活性化することを協議する場を設ける必要があり、また、200人を超えた修了生に対する活動の場の提供や活動内容の支援も重要な課題となっている。

#### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第54回青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課スポーツ推進係
------	--------------	-----	----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 令和2年2月16日(日) 場所: 10キロの部 東青梅四丁目～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部 東青梅四丁目～川井(折返し)～青梅市総合体育館前
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(1967年3月)
(2) 事業の目的	①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加者(定員19,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容(実績値等)	ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部
(5) 事業経費(決算額)	ボランティア用の帽子 : @460円×1,720個+79,120円(消費税)=870,320円 ボランティア弁当 : @420円(税込み)×2,854個=1,198,680円 ※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数: 2,635人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側: 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

第54回大会を通じて、ランナーの頑張る姿、ボランティアの広範な活動等を見ることにより、青梅マラソンの魅力を再認識し、青梅マラソンへの関心や青梅市民としての市民意識を高めている。

#### 行政側

多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ることで、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。参加者からは、大会ボランティアや観客の方等、沿道からあたたかい声援がもらえるとの声を多くいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

雨天など悪天候で開催する場合にどのように備えるか、また、感染症対策の観点を取り入れて開催準備を行う必要がある。

#### 行政側

- ① ボランティアの確保および人員配置と役割についての丁寧な説明
- ② 感染症対策を踏まえた運営・連絡体制の検討
- ③ 記念大会としての魅力的な取組みの検討

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課開発指導係
------	--------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 7/25、2/13 場所: 青梅市文化交流センター(7/25)、本町会館(2/13)	
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的 青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意識の高揚を図り、景観まちづくりの推進を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 青梅駅周辺の景観まちづくりを推進するため、「青梅宿の景観を育む会」の市民団体と協働で機関誌(おうめ風景通信)の発行や青梅駅周辺地区内の景観まちづくりに対する取組みの普及啓発を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動および今までの活動実績の冊子作成などを行った。	
(5) 事業経費(決算額) 景観形成助成金(景観まちづくり市民団体への助成) 30,000円	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 3. 事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅宿の景観を育む会(会員15名) 参加人数: 各回7、8名程度	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成17年度に、「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」を策定するにあたり、地区内の自治会や商店街の代表者および座談会の出席者で発足した「青梅宿の景観を育む会」と協働で景観まちづくりの啓発を行うこととなった。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 3. その他 その他の場合具体的に(計画の意思形成過程)	
(6) 役割分担 市民側: 青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側: 団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      青梅駅周辺地区の景観形成基本計画による景観まちづくりに対する理解は、行政側との協働による取り組みなどをPRしてきた「おうめ風景通信」の発行などにより広がりを見せ、協働事業への賛同も進むこととなった。</p>			
<p>行政側                      市民団体の活動や市との協働事業および市の事業をPRしてきた機関誌(おうめ風景通信)について、前年度から今年度にかけて冊子への取りまとめを行う中で、景観まちづくりの取り組みに対する共通認識を深めると共に、改めて市民との協働事業の重要性を認識した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      景観形成地区内では、店舗の世代交代が多く空き店舗が目立ち、通りの連続性が失われてきている。今後も景観重要資源を始めとした歴史的な建物の保存に対する理解や建物等の新築・改築時に景観形成基本計画に沿った形で進めてもらえるよう、市との協働による取り組みが必要と考える。</p>			
<p>行政側                      市民団体との協働事業の定期的な活動については、青梅駅周辺景観形成地区内における各種事業の進捗状況を踏まえた上で、当面の間休止することとなったが、今後も、当地区内での景観まちづくりに対する取り組みの相談や協議については、事案ごとに協力する必要がある。</p>			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	住宅なんでも相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	-----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年10月26日(土) 午後1時30分～4時30分 場所： 市役所2階 204・205会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年11月)
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕・維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容(実績値等)	相談件数 23件
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と行政書士会、司法書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体) 参加人数： 17人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員  行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。			
行政側 住宅に関する様々な相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、行政書士会、司法書士会にも協力を得て、空家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。			
行政側 さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 引続き、相談内容の種別に対し、専門の相談員を配置できるよう、対応を検討していく。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	定例住宅相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	---------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年4月18日～令和2年3月19日の第3木曜日(10月を除く) 場所： 市役所1階 相談室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年 7月)
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容(実績値等)	開催回数 11回 相談件数 22件
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と行政書士会、司法書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体) 参加人数： 28人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。			
行政側 住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、行政書士会、司法書士会にも協力を得て、空家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。			
行政側 さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 また、相談内容がその相談日のテーマに合っているかの精査が必要であり、場合により相談日(月)の変更等の対応を行う。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室 指導係
------	------------	-----	---------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年 場所： 各市立小・中学校
	1単年度事業 2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容(実績値等)	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費(決算額)	なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：      — 参加人数： 176人 (全校 計)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 学校の依頼にもとづく支援 行政側： 学校への活用奨励

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<b>市民側</b> 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。 できる範囲で教育活動にかかわることができた。 子どもたちの様子をするすることができた。			
<b>行政側</b> 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。 図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。(登録176人) 地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。			
<b>市民側</b> 学校の都合で日時が限定される。 分担の内容の明確化 (どのようなことが望まれているか、はっきりすると活動がしやすくなる)			
<b>行政側</b> 人材の十分な確保 ボランティア人材の発掘			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2019～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 令和元年5月11日(土)、12日(日) 場所： 釜の淵公園およびその周辺施設
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年5月)
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者・参加者 3,830人
(4) 実施内容(実績値等)	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、お話し会、竹細工展示・販売、手品、野点による抹茶接待、青梅だがしや楽校による体験イベント、木工クラブ、市内の団体・企業による飲食物販売。
(5) 事業経費(決算額)	84,656円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア 参加人数： 100人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画運営 行政側： 事務局

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

飲食物の販売が拡充されて来場者の滞在時間も長くなり良くなっている。体験イベントも充実しており、全体として工夫がされていた。多摩リハビリテーション学院の学生たちが、様々な場面でよく動いており、幅広い年齢層の方と接するきっかけとなった。新緑祭を盛り上げようとする考えが全体に理解され、進行もスムーズに行われていた。

#### 行政側

新緑祭全体の準備や片付けにも各団体の実行委員に協力してもらうことで、より協働が進んだ。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

来場者の年齢層が幅広くなるようなイベントの工夫や目的のイベント以外にも見てもらえるような工夫ができるとよい。

#### 行政側

市民も一緒に行う作業の幅も増えてきて協働が進んでいると考える。実行委員会の運営もさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていく事が必要。釜の淵市民館が閉鎖し、文化交流センターが開館したことに伴い、文化交流センターをより良く活用できるようにしていきたい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ネッツたまぐーセンターオープニングイベント ～おいでよ！みんなのあそびばへ～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年4月24日(水)～28日(日) 場所： ネットたまぐーセンター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年5月)
(2) 事業の目的	目的 青梅市文化交流センターの開館にあたり、オープニングイベントを通じた施設のPRを行うとともに、市民の文化交流を促進し、地域資源を活用した芸術環境づくりを推進することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標来場者・参加者: のべ4,000人以上
(4) 実施内容(実績値等)	各種団体によるエントリーステージ33団体、書類選考、選考会を通過した15組の市民によるザ☆のどじまん、市内ダンスグループ10団体による多文化共生ダンスイベント、市内で活動する17団体による様々な文化体験、劇団かかし座による影絵劇231人、市内の14事業者による飲食物販売。 来場者・参加者 4,601人
(5) 事業経費(決算額)	2,291,923円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： ネットたまぐーセンターオープニングイベント実行委員会 参加人数： 41人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民と協働で企画、運営を行いたいと考えていたため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画運営 行政側： 事務局

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

新しい施設でステージでの出演や、日ごろ行っている活動を文化体験を通して市民に知ってもらえたことなど、団体の活動の活性化にもつながった。

#### 行政側

たくさんの市民の皆様のおかげで出来上がったオープニングイベントとなった。多くの市民にイベントに参加してもらえたことで、その参加する人を応援する人が来て、賑わいが生まれ、その他の市民も多く来場し大変盛況に終わることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

今後も市民とともに作っていける施設にネットたぐーセンターがなってくれるとよい。

#### 行政側

オープニングイベント実行委員会の中から4人の生涯学習コーディネーター・プロデューサーをお願いしてネットたぐーセンターの賑わいと活性化に努めてもらっている。また、たまぐー文化祭というイベントを秋に行っており、市民と協働で実施するイベントを継続的にやっている。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： ①令和元年5月25日(土) ②7月27日(土) ③令和2年3月21日(土) 場所： ①②市役所会議室 ③新型コロナウイルス感染予防のため中止
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	家庭教育の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年三回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	①あなたが守る こどもの安全～かけがえのない命を守るために今、私たちにできること～ ②こどものやる気を引き出す！家族の応援(エール)
(5) 事業経費(決算額)	①講師報償金 24,000円 ②講師報償金 26,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人 青梅こども未来 参加人数： 講演会各回10人前後
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て現場の声を反映した講演会とするため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 保護者への周知、講師等の情報提供、子どもの保育、当日受付・手伝い 行政側： 周知、講師交渉、当日運営

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

- ・役割分担することで効率が上がり、家庭教育という1つの趣旨での年3回の開催が可能になっている。
- ・事前の打ち合わせをしっかりと行い、社会的に問題になっていることを講演会のテーマとして取り上げることができた。
- ・講演内容の対象を考えて託児予算を計画的に配分し、定員を要望に合わせて調整できた。

#### 行政側

- ・子育ての現場に関わる市民と協働することで、市民の求める内容の講演会を実施できた。
- ・講演会中の託児保育により、対象となる子育て中の保護者が参加しやすい環境を整えることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

- ・現役子育て世代が、聞きたい・参加したいと思えるテーマでの企画をして「家庭教育講演会」のハードルを下げ、今までこういった場に来たことのない方たちの参加を促していきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった四恩幼稚園を会場にした講演会、参加希望者もいつもより多かったのも、是非次年度再度開催をしていきたい。
- ・昨年も課題として報告したが、市が設定している講師料と候補に挙げたい講師の講演料がかけ離れているため、講師選定が難しくなっている。
- ・託児の当日キャンセル等の連絡を託児担当者にスムーズに伝えるシステムを考えたい。

#### 行政側

- ・会場は市役所だけでなく、講演会に気軽に参加できる場所を検討していきたい。
- ・参加者増加のための周知方法を検討していきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：令和元年5月25日 場所：中央図書館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年6月)
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費(決算額)	なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「リーダーズあおうめ」 参加人数：6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側： 企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。

#### 行政側

朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

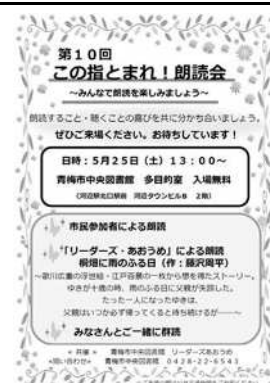
朗読を発表した参加者や行政と、事業実施後に課題や改善点について話し合う機会、反省会を設けたい。

#### 行政側

この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、市民と行政が連携することによって、より参加者が楽しく参加できるイベントへと発展させていく。

### 事業の様子 (写真等)

出演者募集と開催告知に広報用ポスターを作成し、使用した (別添2種)



## 協働事業評価シート（表）

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	---------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成31年4月1日～令和2年3月1日 場所：中央図書館
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成18年11月）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備（整架、配架、資料清掃）
(4) 実施内容（実績値等）	整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理と軽易な資料修理を行っている。
(5) 事業経費（決算額）	なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：図書館整架ボランティア登録者 参加人数：延べ 450人（登録者17人、年間活動日数174日）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	
市民側：	図書の整架・清掃
行政側：	ボランティアに対する社会的活動の場の提供

## 協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5

(11) 協働による効果

市民側

図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。

行政側

ボランティアの受け入れを通じて、より利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、業務負担の低減にもつながった。

(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）

市民側

図書館側とより活発な意見交換をすることにより、より効率的な作業を行えるようにする。  
また、新旧ボランティアの交流を行い、より情報共有に努め、誰もが自信をもって作業にあたるようにする。

行政側

ボランティア側の疑問点等を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。

さらに自立的活動ができるようサポートする。（わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等）

事業の様子（写真等）



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成31年4月1日～令和2年3月1日 場所：中央図書館、梅郷図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成19年 月）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上
(4) 実施内容（実績値等）	おはなし会12回（中央）、10回（今井）、3回（梅郷）、青梅11回、絵本の森11回、大人も楽しむおはなし会2回、新緑祭1回、出張おはなし会5校33回、新町スペシャルおはなし会2回、おはなしドーナッツ27回（中央）、ステップアップ絵本の読み聞かせ学習会 10回、ブックスタート 22回 計144回
(5) 事業経費（決算額）	40,092円 絵本のべんきょう会講師報償金（6,682円×6回） 73,502円 おはなしドーナッツ講師報償金（6,682円×11回）

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本の研究会」、個人登録ボランティア 参加人数：延べ 552人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側： おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

## 協働事業評価シート（裏）

1 できなかった    2 あまりできなかった    3 ほぼできた    4 できた    5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<b>市民側</b> おはなし会に、お父さんと子供の参加も増え、うれしい。			
<b>行政側</b> おはなし会を定期的で開催し、多くの利用者に参加してもらうことで子ども読書活動の推進が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<b>市民側</b> おはなし会に一人でも多くの子どもたちが参加してくれるよう協力したい。			
<b>行政側</b> スタッフの育成とボランティアの育成を一層進めるとともに、円滑な情報交換を図っていきたい。			
事業の様子（写真等）			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	「鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし事業」	担当課	文化課 郷土博物館管理係
------	--	-----	--------------

### 1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所                  期間： (展示・試着体験) 令和元年5月4日(土)、(製作体験) 7月20日(土)、27日(土)、8月4日(日)                  場所： (展示・試着体験) 旧宮崎家住宅、(製作体験) ネットたまぐーセンター研修室</p>
<p>1単年度事業、<u>2継続事業</u> ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年7月)</p>
<p>(2) 事業の目的                  青梅市の市名の由来である平将門の子孫と称する三田弾正を活かした地域おこしを目指し、甲冑試着体験、手作り甲冑教室を開催するとともに、郷土の歴史と文化を学び合うことを通じて郷土を愛する心を育てる。</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等)                  展示・試着、製作体験を通じて、甲冑の構造やその部品の意味などを知るきっかけづくりを行う。また、戦国時代に青梅を中心として活躍した三田氏を中心に郷土の歴史、文化財について興味を持つきっかけを提供する</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等)                  展示・試着体験会および手作り甲冑のかぶと製作体験教室を行った。製作体験教室では、内容は時間の関係上、途中までの作製してあるセットを利用して作業を行い、スタッフが丁寧な指導を実施した。                  展示・試着体験では80名、製作体験教室にはのべ14名の参加があった。</p>
<p>(5) 事業経費(決算額)                  経費なし</p>

### 2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態                  1 政策立案・事業企画等 2 事業<u>共催</u> 3 事業協力 4 事業委託</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数                  団体名： 武州青梅三田弾正手作り甲冑隊                  参加人数： (展示・試着体験) 6名、(製作体験) のべ14名</p>
<p>(3) 協働の提案者                  1 行政からの提案 <u>2 団体等からの提案</u></p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ                  文化課(郷土博物館)と武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊とで平成28年度市民等との協働事業「鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし事業」を実施した。今後の課題の中で、甲冑製作体験を行い、多くの市民に歴史と文化に親しみを持ってもらいたいなどがあげられていた。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。  <u>1 計画段階</u> 2 実施段階 3 その他                  その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担                  市民側： 甲冑の展示、試着補助、説明、製作の講師                  行政側： 広報、開催場所の予約</p>

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

### (11) 協働による効果

#### 市民側

青梅にもこんな歴史があったんだと甲冑製作(今回はかぶと)を通して郷土史を学べる機会になり効果があったと思います。約450年前に三田氏と北条氏がなぜ戦い、それが現在に至るまで、青梅の文化歴史に影響を与えていると思います。これからもボランティアとして行政と協力して甲冑武者の展示と試着を行っていきたくと考えています。

#### 行政側

展示・試着体験会には80名、製作体験教室には延べ14名の参加があり、甲冑を試着体験をすること、甲冑の部品を手づくりすることを通じて、甲冑の構造、仕組みや青梅市の戦国時代、当時の豪族である三田氏についてを知ることができ、効果があった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

参加者からも歴史に興味を持った方がいるので、今後は甲冑製作と城跡の案内を組み合わせればより効果が期待できると思います。また行政と協力して次世代への継承の為に、手作りした甲冑の試着用を充実させたいと考えます。

#### 行政側

製作体験教室は全4回を予定していたが、実際には3回で終了できる工程を組めたので、次回の取り組みの際、スケジュール作成の参考としたい。

次回の製作体験教室では胴部分の作成を検討しており、その際には参加者より徴収している材料費が今年度より高くなることが想定される。そのため、費用を抑えた形での実施方法等を検討したい。

### 事業の様子(写真等)



## 市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	自由	大荷田川の水質調査およびホタル発生状況調査 （「里山の自然環境維持と活用」 に向けての基礎調査）	特定非営利活動法人 青梅まちづくりネットワーク	環境政策課
2	自由	自分を守る・家族を守る・地域を守る♡みんなでする ～災害時避難安全カードづくり &へりサイン更新～	おそきの学校と地域を考える会	防災課
3	自由	身近な森林の活用を考える	NPO 法人青梅林業研究グループ	農林水産課
4	自由	青梅の魅力発信！人と人がつながる！まちとつながる旅「青梅の森の赤ちゃんカフェ」事業	転勤ノオト青梅	秘書広報課 交流担当

### 【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

### 【行政テーマ提案】

市が設定した次のテーマについて、事業を提案するもの

- 1 多世代交流を通じた持続的な地域の新しいつながり・居場所づくり
- 2 あそぼうよ！青梅
- 3 SDGs の推進に向けた、プラスチックごみの削減
- 4 東京 2020 パラリンピックの成功と大会後を見据えた気運醸成
- 5 河川等における市民参加による外来植物の駆除



事業名 大荷田川の水質調査およびホタル発生状況調査  
(「里山の自然環境維持と活用」に向けての基礎調査)



1 実施団体 特定非営利活動法人 青梅まちづくりネットワーク

2 担当課 環境政策課

3 実施時期 令和元年6月～令和2年3月

4 参加者

村野公一（青梅まちづくりネットワーク理事長）

大倉十彌也（青梅まちづくりネットワーク副理事長）

大勢待利明（青梅まちづくりネットワーク副理事長）

田中良樹（青梅まちづくりネットワーク社員）

井上務（日本ホタルの会理事／東京ホタル会議副議長）

渡邊勇（環境カウンセラー／青梅・多摩川水辺のフォーラム顧問）

並木すみ江（青梅長淵丘陵・おおにたの自然を守る会代表幹事）

濱田光一（日本デザイン学会正会員／環境おうめ懇話会代表）

柳川貴嗣（株式会社東京有機農家代表取締役）

伊藤慎二郎（青梅市環境部下水工務課課長／※個人参加）

ほか

《※敬称略、順不同》

## 5 実施場所

〈調査〉 東京都青梅市長淵九丁目 大荷田川上流域周辺  
〈シンポジウム〉 青梅市役所

## 6 事業の目的

青梅市内に残された貴重な里山環境の一つである『大荷田川（おおにたがわ）』において、「水質調査」「放射線量調査」「ホタルの発生状況調査」「ホタルの写真撮影」を行い、その現状についての基礎的なデータを得ること、そして、その調査結果を報告するとともに「里山の自然環境の維持と活用の可能性」を探るシンポジウムを開き、多くの方々とアイデアを共有することを本事業の大きな目的としました。

## 7 役割分担

### ・ 団体の役割

大荷田川周辺における各種の実地調査、および、その結果の整理と考察、また、シンポジウムの内容の構成などを行いました。

### ・ 担当課の役割

団体が行う調査についての各種支援、シンポジウムの開催へ向けての広報活動、会場手配、当日の設営と進行などを担当しました。

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

地域に残されている里山について、今後いかにしてその自然環境を維持しつつ、「産業」「観光」「教育」をはじめとする諸分野に資する資源として活用していけるかを考えることは、青梅にとっては重要な課題です。例えば、そこで農作物を作ったり、子どもたちを遊ばせたりするためには、その場所の現状（自然環境の状況、水質や放射線量の状況など）を基礎的な情報として把握しておく必要があります。今回の調査と結果のレポート、および、各分野の専門家が参加してのパネルディスカッションにおいて、様々な企画を実現していこうとするときの指針となるような有用なアイデアが提案されたと思います。



## 9 目標達成

事業の目標：

「里山を活用する」という企画を考える際に、まず必要となるであろう現状の把握に関し、基礎的な情報をいかにして得ていくかの手法を実験的におこなってみること。

目標の達成具合：

里山の自然環境の最も基礎的な情報である、その地域の特徴的な自然の現状の観察、水質や放射線量の数値データでの把握、地域に住むかたや関連する方々との交流と承諾、より多くの方々との情報共有とアイデア提案の促進といった面で、一定のノウハウを蓄積することができたと考えます。

## 10 事業の実施内容

- ① 水質調査の実施：大荷田川上流の5地点において、令和元年6月18日、10月10日、12月13日の3回実施しました。
- ② 放射線量調査の実施：大荷田川上流の2地点において、6月18日～21日、11月15～18日の2回実施しました。
- ③ ホタルの発生状況の調査：大荷田川上流の3地点において、6月～8月にかけて計30日あまり、飛翔数のカウントを行いました。なお、この調査に関連して、地域の団体や専門家の団体、子どもたちの団体などとの交流と情報交換、専門家によるレクチャーなども行いました。
- ④ ホタルの写真撮影：大荷田川上流において、6月～7月、飛翔数が多い日などに随時、写真撮影を行いました。
- ⑤ シンポジウムの開催：令和2年1月26日、青梅市役所に於いて、「大荷田川の水質&ホタル発生状況調査報告とこれからの里山を考える」と題したシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは「事業実施に関する基調講演」「各調査の結果報告と考察」「青梅市の環境政策事業の紹介」「里山維持活動の現場についての報告」「各方面の専門家にご参加いただいてのパネルディスカッション」などを行いました（参加者数：一般来場者35名、来賓1名、報道3名、登壇者&スタッフ約15名）。

※事業の実施内容の詳細に関しましては、シンポジウムの際に配付した資料などを結果報告資料および参考資料として添付いたします。

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

ホタルの発生状況調査や水質調査など、環境関連の各種調査は、定期的に行わなくては現状が把握できません。そして、それを行っていくためには、地域に密着しつつ調査を担当してくれる人材、および、各種の経費が必要になります。

今回の事業に於いて、基礎的な情報を知るためのノウハウは得ることができたのではないかと思いますので、それをもとに、継続的な調査や活用アイデアの定期的な集積などの作業を、今後は官民が連携しつつ、公的かつ中長期的な事業として実施していただきたいと思います。そうしていくことで、青梅にまだ多く残されていながらも眠らせたままになってしまっている里山を、近い将来には、地域の重要な資源として活用していくことが可能になると思います。

## 13 その他

## 事業名

自分を守る・家族を守る・地域を守る♡みんなを守る  
～災害時避難安全カードづくり&ヘリサイン更新～



1 実施団体 おそきの学校と地域を考える会

2 担当課 市民活動推進課・防災課

3 実施時期 令和元年9月～令和2年3月

4 参加者

1) 避難安全カードづくり

自治会第6支会、第七小学校、第六中学校、小曾木地区自主防災組織連絡会、青梅市市民活動推進課、小曾木市民センター、防災課

2) ヘリサイン更新

おやじの会、自治会第6支会、第七小学校(児童・職員・保護者)、第六中学校(生徒・職員・保護者)、小曾木市民センター、防災課、青梅消防署、誠屋、三ツ橋塗装店

5 実施場所

1) 避難安全カードづくり

小曾木地区全域(第6支会地区)

## 2) ヘリサイン更新

青梅市立第七小学校、青梅市立第六中学校

## 6 事業の目的

- 1) 「ひとのつながり」「ご近所の助け合い」が「自分たち地域の仲間の命を守る」ことを、「避難安全カードづくり」により「見える化」する。
- 2) 地域の避難所である地域の学校のヘリサインを地域住民と学校と青梅市が協働で保守し、その意義を周知する。

## 7 役割分担

### 1) 団体の役割

青梅市との協働、関係各団体との連携を取った事業の主体的実施

### 2) 担当課の役割

- ・ 市民活動推進課…避難安全カード作りの活動において青梅市自治会連合会を通じての命を守るカード作りの活動紹介の青梅市全域への展開へつなげた。事業実施へ向けての情報交換を行った。
- ・ 防災課…ヘリサイン更新において、過去の実績の確認や予算執行への配慮を行うとともに、青梅消防署など関係団体との円滑な協働へつなげた。

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- 1) 市民活動団体が主体となり青梅市と協働して防災面からひとのつながりの大切さ（避難時の近隣声掛けの大切さなど）を発信できた。
- 2) 避難安全カードづくりを通して、自治会の大切さ、安全な地域づくりを市民側が主体となって行うことの大切さを小曾木地区および青梅市内全域への発信ができた。
- 3) 市民活動団体が自治会や青梅市自治会連合会の活動を支援する先例を作り、今後の市民活動団体と自治会の連携推進を図れた。
- 4) 市民活動団体が協働で取り組む雰囲気を高めた。避難安全カードづくりでは、市民が主体的に地域の安全を守る雰囲気を高めた。ヘリサイン更新では停滞していた市内のヘリサイン更新を推進できた。

## 9 目標達成

事業の目標：

- ①災害発生時に小曾木地区から被害者をひとりも出さない。
- ②青梅市内の各地域にも同様の意識を醸成するため、第6支会と連携し小曾木地区以外の自治会等1団体以上への展開へつなげる。

目標の達成具合：

- ①避難安全カードの作成に入ったところで台風19号での各地被災が発生した。小曾木地区での人的被害の発生はなかった。地域住民がカード内容と説明文書を検討することによって災害発生時の取るべき行動がより明確となった。
- ②避難安全カードの制作を検討したいとの声が聞こえ始めたところで新型コロナウイルス感染拡大が発生し、人が集まることができなくなり今年度の活動としての実施はなかった。次年度、依頼があれば引き続き推進する。

## 10 事業の実施内容

### 1) 避難安全カード作成

- ・カード内容の検討は、考える会・自治会第6支会・小曾木市民センター・第七小学校・第六中学校・小曾木地区自主防災組織連絡会・青梅市防災課など多くの人に関わって作成した。



- ・説明は小曾木地区自主防災組織連絡会において行い、配布は、自治会第6支会、小曾木地区その他自治会が実施。青梅市自治会連合会を通じて、青梅市全域の自治会の正副会長への配布を実施した。



## 2) ヘリサイン更新

- ・実施前



- ・実施場所… 青梅市立第七小学校、青梅市立第六中学校



- ・作業方法は、誠屋、三ツ橋塗装店の指導をいただき、安全・円滑に実施。おやじの会、自治会第6支会、第七小学校（児童・職員・保護者）、第六中学校（生徒・職員・保護者）、小曾木市民センター、防災課、青梅消防署にて実施。はしご車による乗車確認も実施。



## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	カード作成		ヘリサイン更新	
	考える会	推進課	考える会	防災課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3	3	3

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 1) 避難安全カードの作成、ヘリサイン更新ともに初期の実施しようとしたレベル以上に行うことができた。
- 2) ヘリサイン更新の消耗品の費用を防災課予算からも支出可能としていただけたため、避難安全カードの制作で記載方法をまとめたプリントの印刷配布も可能となり、初期の予定より充実した内容での発行ができた。
- 3) 避難安全カードの配布は、市民活動推進課との協働によって、青梅市全域の自治会の正副自治会長に配布可能となり、市民団体によるこのような自治会支援活動もある面での紹介もできた。今後の自治会と地域市民団体のつながり作りのきっかけとしたい。
- 4) ヘリサイン更新では、10年前からのヘリサイン作成で地域貢献されている塗装店「誠屋」さんとのつながりを持ったことにより、ノウハウを深く教授いただけた。参加者が子どもたちも含めてより楽しめる消防署はしご車による確認なども実施できた。

## 13 その他

- 1) 2月以降に新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、参加者の安全と健康を守るために事業の実施に支障がでた。
  - ・避難安全カードの作成で、今後の市内での制作へ向けた動きが出始めたが、人の集まりが持たなくなったため、止まってしまい、依頼につながらなかった。
  - ・ヘリサイン更新は、学校が休校となる直前での実施となり、参加者を減少させて安全と検討を守る形での実施となった。その際に必要となった、マスクや消毒液は個人所有の物でその場は代用し、安全と健康を守る形での実施はできた。しかし、その代用した消耗品の購入を年度内に行うことはできなかった。
- 2) しかしながら、災害発生時に備え対応するための小曾木地区での動きは今回の活動で更に大きく前進できた。小曾木市民センターの現元職員の方々にも積極的に関わっていただけた、有意義な活動につながったと感じる。

以上



## 事業名

### 「身近な森林の活用を考える」



- 1 実施団体 NPO 法人青梅林業研究グループ
- 2 担当課 青梅市経済スポーツ部 農林水産課/教育委員会 指導室
- 3 実施時期 令和元年9月6日～令和2年3月31日
- 4 参加者 森林ボランティア関係者、教員関係者、一般市民、企業などで、森林に興味のある方
- 5 実施場所 青梅の森/青梅市文化交流センター  
あまがさすの森/成木小学校
- 6 事業の目的 青梅市内の森林と、森林環境税の有効活用と  
森に関わる人材の育成

※その背景として近年、学校関係からの森林環境教育や、森林林業体験のニーズが高まっている。しかしながら、そのようなニーズに対して、対応できる人材や団体の高齢化、人材不足が懸念されている

## 7 役割分担

### ●団体の役割

- ・森林環境税、森林環境譲与税に詳しい方への講師依頼
- ・森林環境教育や環境学習に詳しい方への講師依頼

### ●担当課の役割

- ・森林環境譲与税の有効かつ適切な使い方を実行するために、各行政担当者や団体、教育機関との連携や調整を図る。
- ・身近な森林に対する意識の向上

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- ・市内の身近な森林の実情を知る事により、放置山林の利活用と、未来の担い手の育成を図る取組について、理解者が増えた。
- ・具体的に、考え行動する人材の発掘ができた。

## 9 目標達成

### ●事業の目標

- ・市内の森林を活かした人材育成を担う、人材ネットワークの構築

### ●目標の達成具合

- ・講師を呼んでの2回の勉強会と、後に行った勉強会参加者との意見交換会において、定期的な情報交換の場ができた。
- ・参加者中心とした「身近な森林の活用を考える会(仮称)」という市内の森林を活かした人材育成を担う人材ネットワークができた。

## 10 事業の実施内容

- 9/6(金)以降より、青梅市とNPO法人青梅林業研究グループ（以下略称：青梅りんけん）が中心となって、勉強会の開催に向けた森林ボランティア関係者、教育関係者、一般市民、企業の洗い出し、勉強会への参加声掛けを行った。

●11/4(月)祝日 森の勉強会 身近な森林の活用を考える(1回目)  
(総勢参加者42名)

前半は、青梅市文化交流センターにて、農林水産課川田係長より、「森林環境税・森林環境譲与税」に関するお話を聞いた後、青梅りんけん会員から、「身近な森林の現状について」の話を聞いた。その後の基調講演では、「森林を活用した教育」の話を環境学習研究会の谷村氏から、「学校との繋がり“連携”」の話を中野区立南台小学校校長の松井氏のお二人から、お話を伺った。

後半は、青梅の森(市有林)の散策を行い、整備森林、未整備森林の視察を行った後、森の中で意見交換を行った。

※詳しくは別紙、実施報告書①参照

●12/8(日) 森の勉強会 身近な森林の活用を考える(2回目)  
(総勢参加者55名)

前半は、成木小学校なかよしホールにて、農林水産課川田係長より、「森林環境税・森林環境譲与税」に関するお話を聞いた後、青梅りんけん会員から、「身近な森林の現状について」の話を聞いた。その後ファシリテーターの環境学習研究会、谷村氏の進行で、基調講演を行った。「小学校における森林と教育」の話を世田谷区立等々力小学校の中楯氏から、「幼稚園における森林と教育」の話を青梅幼稚園園長横山氏から伺った。

後半は、あまがさすの森(民有林)の散策を行った。森林空間の活用事例や、台風19号の被害状況を視察した後、森の中で意見交換を行った。

※詳しくは別紙、実施報告書②参照

●1/11(土) 森の勉強会 今後の活動について(3回目)  
(総勢参加者25名)

2回の屋内屋外における勉強会での反省点や意見交換を、前回までの勉強会に出席された参加者を交えて行った。その中の意見として、今後月1回程度のペースで、身近な森林の活用を考える会(仮称)として、テーマや具体的案件をもって、協議する場ができた。

※身近な森林の活用を考える会、2/6まで開催。3/10は、新型コロナウイルス拡散防止のため延期、4/7予定としている。

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	2
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
(3)協働の役割分担は適切だった	2	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

今後の課題・改善点としては

- ・身近な森林の活用を考える会（仮称）の運営方法の協議
- ・新しい組織を作るのではなく、既存団体での人材ネットワークの強化
- ・すでに市民団体からの森林環境教育や、林業体験の案件があがってきているため、案件を持ってきた団体や関係者が主体的に動く体制の構築
- ・幼保小学校などの教育関係者の参加も多いので、行政と市民が一体となった、将来の森林環境教育、林業体験の指導者育成の推進

## 13 その他

- ・森林環境税、森林環境譲与税の適切な運用をするうえで、身近な森を守る将来の担い手育成は必須である。青梅市での早急な取り組みを望む。

事業名 青梅の魅力発信！人と人がつながる！まちとつながる旅



- 1 実施団体 転勤ノオト青梅
- 2 担当課 農林課 秘書広報課
- 3 実施時期 令和元年 11 月 24 日（日）
- 4 参加者 29 名（21 名+講師 3 名+スタッフ 3 名+市職員 2 名）
- 5 実施場所 奥多摩フィッシングセンター、青梅駅周辺、榎戸園畑、  
カフェむく

6 事業の目的

人と人がつながれるコミュニティを作り、引っ越してきた人・引っ越す人が青梅に住もうと思う移住コミュニティを作る。

ここから、

- ① 転勤者・移住者は職を求めてくる。青梅の産業人材を増やす。例）農家さんの収穫時期のみ手伝ってくれるママチームを作り、仕事を手伝ってもらったことがある。
- ② 青梅外の方も参加者として呼ぶことで、青梅に引っ越してこようかな、青梅に関わろうかなという関係人口を増やすことにつながる。

③ 既に引っ越してきた人にとっては、横のつながりを構築できるきっかけとなる。

## 7 役割分担

### ・団体の役割

会場予定場所、講師の依頼調整など  
参加者募集の広報活動  
当日の事業の円滑な運営

### ・担当課の役割

<秘書広報課> 広報おうめ掲載、市内募集取りまとめ  
<農林課> 当日のイベント運営補助

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

青梅市広報の応募が5組13名に対し、SNSでの直接応募が12組25名。直接応募のうち、市外からの応募者が5組となり、SNSを使って発信した手ごたえを感じた。

実際に青梅に移住して地元コミュニティとの繋がりを求めている移住者と、繋がる事が出来た。市外の参加者には青梅市の新たな魅力を発信出来たことにより、人口増加へと繋がる関係人口を増やす事が出来た。

## 9 目標達成

事業の目標：青梅での生活に希望が持てた人、青梅に引っ越してこようと思う人が増加。現在の青梅市の人口減に対しての増加見込み、農業人口への増加見込める。

目標の達成具合：

SNS、HP記事（募集、報告）、制作物を通して市内・市外共に青梅の魅力を発信できた。アンケート結果より市外在住者は青梅再訪の期待がもてること、青梅在住者は、青梅の魅力を再発見したこと、青梅に移住してきた人は、こういったつながりを持てる機会を求めていたことがわかった。こういった活動を続けることによって、青梅市の人口減に歯止めをかけ、青

梅や農業に関心を高めることができると確信した。

※アンケート結果は別紙参照。

## 10 事業の実施内容

青梅市民、青梅への移住に興味のある市外の方を対象にバスツアーによる青梅市の農水産業の魅力を紹介。

奥多摩フィッシングセンターでのマス釣り体験、青梅駅近辺の散策（新規出店商店を見学）、榎戸園畑の芋ほり、カフェむくでの青梅の住宅事情案内。講師として、市内事業者コーキ屋濱中氏、榎戸園榎戸氏、転勤ノオト全国代表松田氏に青梅の魅力発信と転勤者移住者と市民との交流活動やサポートの事例などをお話いただき、参加者と交流を行った。

実施後、Web上に報告記事を掲載。当初、イベント報告だけの予定だったが、上段：イベント報告、中段：訪問した先の店舗情報、下段：青梅市の情報リンクを掲載するように修正し公開した。

<https://tenkin-note.com/content/1462>

Web上にて青梅の情報発信を行うとともに、その記事のリンク先を印刷したカードを製作した。

表面には記事のリンク先にとび2次元バーコードを印刷。容易に閲覧できるように工夫した。裏面は青梅に興味を持ってもらった際に見てもらいたい情報収集先として、「移住」（青梅市HP）「観光」（おうめ観光ガイドHP）「創業」（おうめ創業支援センター Begin）「暮らし」（OMEGOCOTI）のリンク先2次元バーコードを入れ込んだ。



こちらのカードを広報部を通じて 200 部程度を青梅市に転入してきた方へ、100 部を市内の市民センター各所へ配布した。

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

市外への青梅のアピールや、移住者などへのサポートに対する要望はあると今回のツアーで認識できた。今後はどのようにつなげていくかが課題である。今回はターゲットを絞らず広く募集したが、今後はターゲットを絞って再訪を促す企画や移住者へのサポート企画なども考えるべきと感じた。引き続き、行政や地域団体、企業などと連携しながら、青梅市の人口減に対しての施策を打っていきたいと考える。

そのために、地域の人に今年の成果を伝えながら、まわっていきたい。

1 回目の開催にご尽力いただき、東京都内を中心に多くの方からお問い合わせをいただいたのは関わっていただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



### 13 その他

他自治体においても同じ仕組みで事業実施をしている。情報交換をしながら、地域に求められているコミュニティ造成に力を入れていきたい。  
また、転勤や移住できた奥さんたちにも暮らしや仕事を支援ができる団体でもありたいと思う。